

ILSI Japan 活動報告<2024>

食品安全研究会

【食品微生物研究部会】

活動ビジョン・ゴール	年度目標
<p>食品産業会が抱える食品微生物関連の共通課題を、部会員が協同で（企業の枠を超えて）研究し解決を目指す。</p> <p>食品関連企業の微生物担当者が業務上の悩みや課題を相談・共有し相互解決できる場として機能する。</p> <p>当部会の研究成果を含む食品微生物に関する安全性等の情報について、広く周知活動を行う。</p>	<p>部会員が集まり定期的に交流や情報交換を行える場としての部会運営の再整備（アフターコロナ対応としての集まる場の整備）</p> <p>新規研究プロジェクトの立案および他機関との積極的な連携の実施</p>

	進捗・課題	予定・行動計画	関連団体等
1, 2 月	<p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ILSI Japan/NITE 合同シンポジウムの開催に向けた各種準備作業を実施。 <p>【分科会活動】</p> <p>(1) 芽胞菌研究分科会</p> <ul style="list-style-type: none"> 飲料の危害微生物に関する分科会メンバー間の情報交換会を1/12に実施。次回は4月中に開催予定。 <p>(2) MALDI-TOF MS 研究分科会</p> <ul style="list-style-type: none"> NITE との連携協定に基づき、MALDI 用解析ツールである Mass-Up の勉強会を開催した (1/17)。ILSI から 8 社 16 名、NITE から 5 名参加があり、Mass-Up を用いた MALDI スペクトルの実践的な解析事例を交えて議論、情報共有した。 <p>(3) チルド勉強会</p> <p>a. ボツリヌス菌接種試験活動</p> <ul style="list-style-type: none"> 日缶協で実施中の追加試験の進捗共有、結果公表までのスケジュールについての協議のため、メンバーおよび日缶協で Web 会議を開催 (2/29)。結果公表まで 	<p>各分科会の研究活動に加え、各社が共通に抱える食品微生物関連の課題について、部会全体でのディスカッションおよび関連団体等との連携を通じ、課題抽出と解決策の検討を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> (公社) 日本缶詰びん詰レトルト食品協会（日缶協） (独) 製品評価技術基盤機構（NITE）

	<p>の期間中、定期的に情報交換会を開催する方針を決定。</p> <p>b. 耐熱性試験法検証活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動なし（検証試験の对外発表に向け、結果を取り纏め中）。 <p>(4) 国際整合性のある食品微生物リスク管理研究分科会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・以下の読み合わせおよび和訳を継続実施中。 <p>FAO/WHO Microbiological Risk Assessment Series 24 "Statistical Aspects of Microbiological Criteria Related to Foods"</p>		
3, 4 月	<p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ILSI Japan/NITE 合同シンポジウムを 3 月 6 日に、三菱ケミカル株式会社 Science & Innovation Center にて開催。食品産業において求められる微生物検査と法令対応をテーマに 7 題の講演があり、96 名が参加。 ・ 部会長団の引継ぎを実施。 ・ 今後の部会運営の方針検討中。 <p>【分科会活動】</p> <p>(1) 芽胞菌研究分科会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 飲料の危害微生物に関する分科会メンバー間の情報交換会を 4/12（金）に実施。次回は 7 月頃に開催予定。 <p>(2) MALDI-TOF MS 研究分科会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 活動無し。 <p>(3) チルド勉強会</p> <p>a. ボツリヌス菌接種試験活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 活動なし（追加試験について日本缶詰びん詰レトルト食品協会にて調整中）。 <p>b. 耐熱性試験法検証活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 活動なし（検証試験の对外発表に向け、結果を取り纏め中）。 <p>(4) 国際整合性のある食品微生物リスク管理研究分科会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 以下の読み合わせおよび和訳を継続実施中。 <p>FAO/WHO Microbiological Risk Assessment Series 24 "Statistical Aspects of Microbiological Criteria</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 部会運営方針の策定 ・ 各分科会の研究活動の推進 ・ 食品微生物関連の共通課題抽出のための部会全体での議論 ・ 各種活動を推進するための関連団体等との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・ (公社) 日本缶詰びん詰レトルト食品協会（日缶協） ・ (独) 製品評価技術基盤機構（NITE）

	Related to Foods"		
5, 6月	<p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「内部標準管理」と「標準芽胞液」に関する各社の課題認識やニーズを調査するためのアンケートを実施。結果を集計し解析中。 <p>【分科会活動】</p> <p>(1) 芽胞菌研究分科会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5-6月は活動なし。飲料の危害微生物に関する分科会メンバー間の情報交換会を7月中旬頃に開催予定。 <p>(2) MALDI-TOF MS 研究分科会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動無し。 <p>(3) チルド勉強会</p> <p>a. ボツリヌス菌接種試験活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動なし（追加試験について日本缶詰びん詰レトルト食品協会にて調整中）。 <p>b. 耐熱性試験法検証活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動なし（検証試験の对外発表に向け、7/10にWebにて打合わせ予定）。 <p>(4) 国際整合性のある食品微生物リスク管理研究分科会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進捗無し。 	—	
7, 8月	<p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8月5日にオンライン部会を開催。部会運営方針を再定義して展開。また、部会員が部会活動を通して獲得したい事柄についてヒアリングを実施。今後の活動に反映する。 <p>【分科会活動】</p> <p>(1) 芽胞菌研究分科会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飲料の危害微生物に関する分科会メンバー間の情報交換会を7月16日にオンラインで開催した。次回は10月中旬頃に開催予定。 <p>(2) MALDI-TOF MS 研究分科会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分科会の発足目的が十分に達成されたことを関係者間で確認し、活動終了を決定した。 	—	

	<p>(3) チルド勉強会</p> <p>a. ボツリヌス菌接種試験活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動なし（追加試験について日本缶詰びん詰レトルト食品協会にて調整中）。 <p>b. 耐熱性試験法検証活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・検証試験の対外発表に向け、7月10日にWeb打合わせ実施。 ・検証試験結果を取り纏め、日本缶詰びん詰レトルト食品協会技術大会の演題として登録。 <p>(4) 国際整合性のある食品微生物リスク管理研究分科会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進捗無し。 		
9, 10 月	<p>【全体】</p> <p>次回の部会会合を 11/27 に予定する。勉強会等の準備を進めた。</p> <p>【分科会活動】</p> <p>(1) 芽胞菌研究分科会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飲料の危害微生物に関する分科会メンバー間の情報交換会を10月7日にオンラインで開催した。次回は来年1月中旬頃に開催予定。 <p>(2) チルド勉強会</p> <p>a. ボツリヌス菌接種試験活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動なし（追加試験について日本缶詰びん詰レトルト食品協会にて調整中）。 <p>b. 耐熱性試験法検証活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本缶詰びん詰レトルト食品協会技術大会（11/19-20）発表にむけ準備中。 <p>(3) 国際整合性のある食品微生物リスク管理研究分科会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進捗無し。 		
11, 12 月	<p>【全体】</p> <p>11月27日（水）13:00～17:00に、江東区森下文化センター第2研修室とZoomとのハイブリッドにて、勉強会および部会を開催。部会員36名が参加。主要な内容は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公益社団法人大分県薬剤師会 検査センター微生物顧問 緒方喜久代先生をお招きし「微生物試験における精度管理」との演題でのご講演をいただいた。部会 		

	<p>の主要課題のひとつである精度管理に関する理解を深めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 分科会報告を実施。芽胞菌分科会より定期議論のレビュー、チルド勉強会より後述の発表内容および会場からのご意見についての報告、国際整合性のある食品微生物リスク管理研究分科会より活動レビューと今後の活動案の提示があった。 部会内でのディスカッションを実施。4つの議題についてそれぞれテーブルを設け、意見交換を実施した。 <p>【分科会活動】</p> <p>(1) 芽胞菌研究分科会</p> <ul style="list-style-type: none"> 活動無し。 <p>(2) チルド勉強会</p> <p>a. ボツリヌス菌接種試験活動</p> <ul style="list-style-type: none"> 活動なし（追加試験について日本缶詰びん詰レトルト食品協会にて調整中）。 <p>b. 耐熱性試験法検証活動</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本缶詰びん詰レトルト食品協会 第73回技術大会（11/19-20）にて、「芽胞の耐熱性測定における試験室間検証試験 ～ <i>Bacillus cereus</i> 芽胞の耐熱性測定～」として口頭発表。 <p>(3) 国際整合性のある食品微生物リスク管理研究分科会</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後の方針について議論（12/17、オンライン） 		
--	---	--	--

ILSI Japan 活動報告<2024>

食品安全研究会

【食品リスク研究部会】

活動ビジョン・ゴール	年度目標
食品の安全性評価の考え方を学び、その普及に努める。	① 食品リスク研究に関する勉強会を 3 回以上開催し、情報発信する。 ② 「ナチュラルミステイク」の情報発信。

	進捗・課題	予定・行動計画	関連団体等
1, 2 月	2 月 21 日に部会をハイブリッド開催した。 ① 今年の勉強会も昨年同様 3 回を目途に有志によるWGを形成して企画運営する。 ② 「ナチュラルミステイク」については監訳者のインタビュー記事掲載により、12 月の売り上げが急拡大したため、対応を一時中断する。	① 勉強会開催に向けて、企画・準備を進める。 ② 今後の売れ行きを注視して再検討する。	
3, 4 月	4 月 12 日に部会を開催した。 ① 勉強会は本年 8 月、10 月、12 月を目途に 3 回開催とする。回毎の勉強会担当者を決定し、準備を開始した。 ② 進捗なし。	第 1 回勉強会は国立医薬品食品衛生研究所の小川久美子先生、元国立医薬品食品衛生研究所の畝山智香子先生をお招きし、二酸化チタンの安全性と国内外の規制についてお話しいただくこととなった。8 月 29 日にハイブリッドで開催する。	
5, 6 月	6 月 24 日に部会を開催した。 ① 第 1 回勉強会は 8 月 29 日にハイブリッド開催で「食品添加物二酸化チタンの安全性を取り巻く状況」と題して、国立医薬品食品衛生研究所の小川久美子先生と畝山智香子先生にご講演いただくことが決定した。 第 2 回は食品と食品添加物のアレルギー評価に関するテーマで開催する方向となった。 ② 進捗なし	第 2 回勉強会は 9 月末～10 月開催予定。第 3 回勉強会は 11 月～12 月開催予定。	

7, 8月	<p>① 8月29日に第1回勉強会をハイブリッド開催した(会場:森下文化センター)。「食品添加物二酸化チタンの安全性を取り巻く状況」と題して、国立医薬品食品衛生研究所の小川久美子先生と畝山智香子先生にご講演いただいた(有料参加者26名)。</p> <p>② 同日、部会を開催し、第2回勉強会は、「食品・食品添加物のアレルギー性評価について」のタイトルで手島玲子先生に、第3回勉強会は、「食品安全に関する消費者意識の変遷—今、食品企業に求められること—」のタイトルで森田満樹先生にそれぞれご講演いただくこととなった。</p>	<p>勉強会予定 第2回:10月30日(水) 第3回:12月9日(月) 場所はいずれも森下文化センター及びWebのハイブリッド</p>	
9, 10月	<p>① 10月30日に第2回勉強会をハイブリッド開催した(会場:森下文化センター)。「食品・食品添加物のアレルギー性評価について」と題して、国立医薬品食品衛生研究所客員研究員の手島玲子先生にご講演いただいた(有料参加者29名)。</p> <p>同日、部会を開催し本年勉強会についての「イルシー」誌へのフラッシュレポートの内容を確認した。</p>	<p>勉強会予定 第3回:12月9日(月) 場所:森下文化センター及びWebのハイブリッド 「イルシー」誌への投稿: ・勉強会全体のフラッシュレポート(162号) ・第2回勉強会の内容を手島玲子先生による書き下ろし原稿として投稿(162号)</p>	
11, 12月	<p>① 12月9日に第3回勉強会をハイブリッド開催した(会場:森下文化センター)。「食品安全に関する消費者意識の変遷—今食品企業に求められること—」と題して、森田満樹先生(FOOCOM)にご講演いただいた(有料参加者24名)。</p> <p>同日、部会を開催し本年勉強会の振り返り、「イルシー」誌へのフラッシュレポートの内容・スケジュールを確認した。</p>	<p>・勉強会全体のフラッシュレポート(「イルシー」162号) ・第2回勉強会の内容を手島玲子先生による書き下ろし原稿として投稿(「イルシー」162号)</p>	

ILSI Japan 活動報告<2024>

食品安全研究会

【香料研究部会】

活動ビジョン・ゴール	年度目標
食品香料の性質と安全性等に関し偏向の無い科学的な調査研究を行う。食品香料に関する正しい科学的共通理解を産・官・学に普及させる。	—

	進捗・課題	予定・行動計画	関連団体等
1, 2月	—	—	—
3, 4月	—	—	—
5, 6月	—	—	—
7, 8月	—	—	—
9, 10月	—	—	—
11, 12月	—	—	—

ILSI Japan 活動報告<2024>

食品領域の動物実験代替推進プロジェクト (AAT プロジェクト)

◆全体進捗

活動ビジョン・ゴール	年度目標
(1-2 月度) ~ (9-10 月度) <活動目的> 1) 動物に依存しない、毒性発現機序に基づいた、ヒトへの予測性のより高い評価アプローチを確立し、食品の安全性および機能性評価の精緻化・効率化を進展させること。 2) 動物愛護の世界的潮流の中で食品領域の取り組みを加速させること。	<ul style="list-style-type: none"> 研究 WG テーマ推進による評価技術基盤並びに評価戦略構築とケースレポートの作成。 情報収集・発信 (国際ワークショップ内容のレポートによる発信、シンポジウムの開催)。
(11-12 月度より変更) <活動目的> 1) 動物に依存しない、毒性発現機序に基づいた、ヒトへの予測性のより高い評価アプローチを確立し、食品の安全性および機能性評価の精緻化・効率化を進展させること。 2) 動物福祉の世界的潮流の中で食品領域の取り組みを加速させること。	

	進捗・課題	予定・行動計画	関連団体等
1, 2 月	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクトの今後の活動方向性等に関する議論を目的に、コアメンバー会議を開催 (1/26) プロジェクトのアカデミア委員 (国衛研平林容子先生、小島肇先生) への活動報告会議を開催 (2/5) 	<ul style="list-style-type: none"> 3/15 にプロジェクト全体会議を開催予定 (外部会議室 (森下) &Web)。 	<ul style="list-style-type: none"> 国立医薬品食品衛生研究所、独立行政法人 製品評価技術基盤機構 (NITE)、アカデミア等の専門家 関連学会 (日本動物実験代替法学会等) ヨーロッパ、アジア等の ILSI 支部
3, 4 月	<ul style="list-style-type: none"> 3 月 15 日 プロジェクト全体会議を開催 (外部会議室 (森下) &Web)。 プロジェクト全体及び各 WG の進捗と今後の活動方針・計画を共有し、全体にて承認。プロジ 	<ul style="list-style-type: none"> 3/19 にプロジェクト参画企業メンバーを対象として、食品機能性分野での動物によらない評価技術に関する勉強会を開催 (外部会議室 (森下) &Web)。 	<ul style="list-style-type: none"> 国立医薬品食品衛生研究所、独立行政法人 製品評価技術基盤機構 (NITE)、アカデミア等の専門

	<p>エクトの外部連携活動の状況について共有。</p>		<p>家</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関連学会（日本動物実験代替法学会等） ・ヨーロッパ、アジア等の ILSI 支部
5, 6 月	<ul style="list-style-type: none"> ・6 月 5 日 プロジェクト全体会議を開催（外部会議室（森下） & Web）。 ・プロジェクト全体及び各 WG の進捗と今後の活動方針・計画を共有し、全体にて承認。プロジェクトの外部連携活動の状況について共有するとともに、外部発表（第 37 回日本動物実験代替法学会）の実施について承認。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部発表（2024 年 11 月 第 37 回日本動物実験代替法学会大会 一般演題）を計画。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国立医薬品食品衛生研究所、独立行政法人 製品評価技術基盤機構（NITE）、アカデミア等の専門家 ・関連学会（日本動物実験代替法学会等） ・ヨーロッパ、アジア等の ILSI 支部
7, 8 月	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の全体会議（6 月 5 日）で、外部発表（第 37 回日本動物実験代替法学会一般演題発表）を決定。学会発表準備会議を新たに設置。7, 8 月に 3 回の会議を行い、発表概要（演題、発表者、発表内容骨子等）について議論し決定。準備を進めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・9 月 20 日にプロジェクト全体会議を開催予定（外部会議室（森下） & Web）。 	
9, 10 月	<ul style="list-style-type: none"> ・9 月 20 日 プロジェクト全体会議を開催（秋葉原外部会議室 & Web 開催）プロジェクト全体及び各 WG の進捗と今後の活動方針・計画を共有し、全体にて承認。 ・外部発表を予定（第 37 回日本動物実験代替法学会、シンポジウム及び一般演題にて発表）。学会発表準備会議を設置（7 月）し、発表概要（演題、発表者、発表内容骨子等）を決定。9～10 月も引き続き定期的に本会議を開催し、資料作成を進めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本動物実験代替法学会第 37 回大会（11 月@宇都宮）のシンポジウム並びに一般演題（ポスター）にて発表予定。 ・12 月 25 日にプロジェクト全体会議を開催予定（外部会議室（森下） & Web）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国立医薬品食品衛生研究所、独立行政法人 製品評価技術基盤機構（NITE）、一般財団法人化学物質評価研究機構（CERI）、その他アカデミア等の専門家 ・関連学会（日本動物実験代替法学会等） ・ヨーロッパ、アジア等の ILSI 支部
11, 12 月	<ul style="list-style-type: none"> ・12 月 25 日 プロジェクト全体会議を開催（外部会議室・森下文化センター & Web 開催）。プ 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後のプロジェクトの活動について、方向性、活動戦略、スケジュール等に関する議 	<ul style="list-style-type: none"> ・国立医薬品食品衛生研究所、独立行政法人 製品評価

	<p>プロジェクト全体及び各 WG の進捗と今後の活動方針・計画を共有し、全体にて承認。2024 年度の活動収支（見込み）の報告並びに 2025 年度の活動予算と会費について説明。</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部発表：第 37 回日本動物実験代替法学会学術大会（11/29～12/1、宇都宮）においてシンポジウム及び一般演題ポスターにてプロジェクト活動内容について発表。 	<p>論を目的に、コアメンバー会議を開催予定（2025 年 1 月～3 月）</p>	<p>技術基盤機構（NITE）、一般財団法人化学物質評価研究機構（CERI）、その他アカデミア等の専門家</p> <ul style="list-style-type: none"> 関連学会（日本動物実験代替法学会等） ヨーロッパ、アジア等の ILSI 支部
--	--	--	--

体内曝露予測ワーキンググループ（WG）

活動ビジョン・ゴール	年度目標
<p>食品成分の体内曝露を、動物を用いずに予測する手法の開発推進と現場実装</p>	<p>（1-2 月度）～（7-8 月度）</p> <ol style="list-style-type: none"> 昭和薬科大学山崎研に構築した <i>in silico</i> 動態予測モデルの実装 新規腸管吸収予測ツールの適用性把握 ケースレポート対象化合物の体内曝露予測 <p>（9-10 月度）より変更</p> <ol style="list-style-type: none"> 昭和薬科大学山崎研にて構築された <i>in silico</i> 動態予測モデルの実装 新規腸管吸収予測ツールの適用性把握 ケースレポート対象化合物の体内曝露予測

	進捗・課題	予定・行動計画	関連団体等
1, 2 月	<ol style="list-style-type: none"> <i>in silico</i> 動態予測モデル活用のためのガイドンス（AAT メンバーに共有用）作成を開始した。また、<i>in silico</i> 動態予測モデルを適用できる動態試験条件の明確化のため、既存文献の収集を進めた。 <i>in silico</i> 動態予測モデル活用の課題と解決アプローチについて協議した。 進捗なし。 	<p>2024 年上期：<i>in silico</i> 動態予測モデル活用のためのガイドンスの作成</p> <p>2024 年下期：<i>in silico</i> 動態予測モデルの論文化検討</p>	
3, 4 月	<ol style="list-style-type: none"> <i>in silico</i> 動態予測モデル活用のためのガイドンス（AAT メンバーに共有用）作成を進めた。また、本予測モデルを簡便に利用するための実行ファイルを作成 	<p>2024 年上期：<i>in silico</i> 動態予測モデル活用のためのガイドンスの作成</p> <p>2024 年下期：<i>in silico</i> 動態予測モデルの論文化検討</p>	

	<p>した。</p> <p>② in silico 動態予測モデル活用の課題と解決アプローチについて協議した。</p> <p>③ 進捗なし</p>		
5, 6月	<p>① in silico 動態予測モデルのガイドランス作成を進めた。特に今回は、ケミカルスペースと in silico 動態予測モデルによる血中濃度予測結果の関係性を確認した。その結果、食品成分は特定のケミカルスペースで予測精度が低下したが、その他成分群ではその傾向が認められないことが分かった。以上の結果を含め、ガイドランス記載内容の議論を進めた。</p> <p>②, ③ 進捗なし</p>	<p>① in silico 動態予測モデルのガイドランス作成に向け、以下対応を引き続き進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食品成分の定義の明確化 ・食品成分の予測精度と成分の特徴の関係性の明確化 ・血中濃度予測が可能なヒト試験の条件の明確化 	
7, 8月	<p>① in silico 動態予測モデルのガイドランス作成を進めた。また、本モデルの適用範囲について、これまで食品成分について検討してきたケミカルスペースと FaFg の考慮は医薬品成分等の非食品成分についても同様に予測精度向上に繋がることを確認した。本知見を踏まえ、ガイドランスの作成を進める。</p> <p>②, ③ 進捗なし</p>	<p>① in silico 動態予測モデルのガイドランス作成に向け、以下対応を引き続き進める。特に、本モデルの詳細の使用方法などの説明文書作成に着手し、ガイドランス案完成を目指す。</p>	
9, 10月	<p>① in silico 動態予測モデルのガイドランス作成を進めた。特に今回は、本文について一通りの内容の案の作成を完了した。さらに、内容の推敲を進めている。</p> <p>② 食品成分の体内動態予測に関する各社のニーズや現状の技術の課題を整理し、来年度の計画について議論を進めた。</p> <p>③ ケースレポート対象のアルカロイドや医薬品成分について体内曝露予測を実施した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・食品成分の体内動態予測に関する来年度の活動計画の具体化。 ・昭和薬科大学山崎浩史教授と、in silico 動態予測モデルの食品成分予測に関する検討結果等について相談予定。 	
11, 12月	<p>① in silico 体内動態予測モデルのガイドランス作成に向け、ケミカルスペースの簡易実行ファイル構築を進めた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・食品成分の体内動態予測に関する来年度の活動計画の具体化。 	

	<p>② 来年の活動方針について議論し、体内動態予測モデルの検討内容の論文化を主要な取り組みとすることで合意。</p> <p>③代替法学会発表ポスター作成に協働。</p>		
--	---	--	--

データベース WG

活動ビジョン・ゴール	年度目標
食品成分の既存毒性情報（文献等）を収集、活用し、反復投与毒性を予測する手法、システムを開発中。独自に毒性情報を収集することも検討する。	有害性評価支援システム統合プラットフォーム（HESS）を用いた食品成分毒性試験データベース及び使用ガイダンスを含む毒性予測手法の AAT 参画メンバーへの公開

	進捗・課題	予定・行動計画	関連団体等
1, 2 月	<p>昨年までに構築した食品成分の毒性試験データベース（176 種）の有用性検証を目的に Read-across の予測結果と原著論文を用いて POD やターゲット臓器の予測の妥当性検証を 6 月までに実施。本検証から得られた知見を HESS の利用ガイドとして活用できるよう、事例集及びコンセプトシートを作成。</p> <p>12 月の全体会議にて合わせて 176 種のデータベースの公開をもって本 WG の活動を一旦完了とすることで合意した。データベースの HESS への登録や知財の課題について、HESS を管理している独立行政法人 製品評価技術基盤機構（NITE）と相談を実施。</p>	データベースの公開に向け、改めて知財の課題について対応する（有償文献由来のデータ数の把握、データベースの順次登録検討等）。	
3, 4 月	<p>昨年までに構築した食品成分の毒性試験データベース（176 種）の有用性検証を目的に Read-across の予測結果と原著論文を用いて POD やターゲット臓器の予測の妥当性検証を 6 月までに実施。12 月の全体会議にて合わせて 176 種のデータベースの公開をもって本 WG の活動を一旦完了とすることで合意済。データベースの HESS への登</p>	データベースの公開に向け、知財の課題について対応継続（有償文献由来のデータの掲載可否確認、データベースの順次登録検討等）。	

	録や知財の課題について、HESSを管理している独立行政法人 製品評価技術基盤機構 (NITE) と相談を実施し、特に有償文献由来のデータについて、発行元と確認する方針とした。		
5, 6 月	昨年までに構築した食品成分の毒性試験データベース (176 種) の有用性検証を目的に Read-across の予測結果と原著論文を用いて POD やターゲット臓器の予測の妥当性検証を実施。合わせて 176 種のデータベースの公開をもって本 WG の活動を一旦完了とすることで合意済。データベースの HESS への登録や、論文データの商業利用・知財の課題について、HESS を管理している独立行政法人 製品評価技術基盤機構 (NITE) や参画企業内専門部署と相談を実施した。結果、知財に関する大きな課題はないが、商業利用については、無償・有償、ILSI 内外の展開問わず、文献由来のデータについて、発行元に確認する必要があることを見出した。	データベースの公開に向け、商業利用の課題について対応継続 (有償文献由来のデータの掲載可否確認、データベースの順次登録検討等)。	
7, 8 月	昨年までに構築した食品成分の毒性試験データベース (176 種) の有用性検証を目的に Read-across の予測結果と原著論文を用いて POD やターゲット臓器の予測の妥当性検証を実施。合わせて 176 種のデータベースの公開をもって本 WG の活動を一旦完了とすることで合意済。データベースの HESS への登録や、論文データの商業利用・知財の課題について、引き続き検討中。	データベースの公開に向け、商業利用の課題について対応継続 (有償文献由来のデータの掲載可否確認、データベースの順次登録検討等)。	
9, 10 月	昨年までに構築した食品成分の毒性試験データベース (176 種) の有用性検証を目的に Read-across の予測結果と原著論文を用いて POD やターゲット臓器の予測の妥当性検証を実施。合わせて 176 種のデ	データベースの公開に向け、商業利用の課題について対応継続 (有償文献由来のデータの掲載可否確認、データベースの順次登録検討等)。	

	<p>データベースの公開をもって本 WG の活動を一旦完了とすることで合意済。データベースの HESS への登録や、論文データの商業利用・知財の課題について、引き続き検討中。</p> <p>【9～10 月度進捗なし】</p>		
11, 12 月	<p>2023 年までに構築した食品成分の毒性試験データベース (176 種) の有用性検証を目的に Read-across の予測結果と原著論文を用いて POD やターゲット臓器の予測の妥当性検証を実施。合わせて 176 種のデータベースの公開をもって本 WG の活動を一旦完了とすることで合意済。データベースの HESS への登録や、論文データの商業利用・知財の課題について、2024 年より引き続き検討中。</p> <p>【11～12 月度進捗なし】</p>		

ケースレポート WG

活動ビジョン・ゴール	年度目標
<p>NAMs (New Approach Methodologies) を用いた食品成分の安全性評価戦略を具体化させ、体内曝露予測 WG とデータベース WG の活動と協力し、in vitro assay 系を加えたリスク評価戦略を作成し、ケースレポートとして発信する。</p>	<p>(1-2 月度) ～ (9-10 月度)</p> <p>第 1 弾のケーススタディは「肝障害」をテーマとし、ラット肝細胞を用いた試験から in vitro PoD を求め、評価スキームの妥当性を検証する。</p>
	<p>(11-12 月度) より変更</p> <p>第 1 弾のケーススタディは「肝障害」をテーマとする。評価スキームの検証は、in vitro では Bayesian BMD 解析にて算出した BMDL を、in vivo では肝障害のみられた用量における曝露濃度予測値をそれぞれ PoD とし、両者を比較することで妥当性を検証する。</p>

	進捗・課題	予定・行動計画	関連団体等
1, 2 月	<p>ラット肝細胞を用いた文献報告を利用し、BMD 法 (EPA モデル) にて BMDL (95%信頼限界下限値) を推定 (in vitro PoD)。ラット短期反復投与試験報告の肝障害に対</p>	<p>Bayesian BMD (EFSA モデル) を用いた検討を進めると共に、BMD 評価手法の有用性確認の検討を、外部専門家と連携しながら進める。</p>	

	<p>する BMDL から曝露濃度予測値を算出 (in vivo PoD)。BMD 解析法における課題を抽出すると共に、in vitro および in vivo PoD を比較することで、設定した評価戦略の妥当性を検証中。</p> <p>サンプルの平均値に左右され、サンプル数によって推定値が変化する BMD に代え、分布を利用して確率変数を求める「ベイズモデル平均化法」が今後主流になるとの意見を受け、Bayesian BMD (EFSA モデル) を用いた検討を開始。</p>	<p>BMD 評価手法の検討では、対象成分を食品に限らず、既存化合物にまで広げて実施することで評価実績を積み重ね、評価手法の有用性を確認する。</p>	
3, 4 月	<p>植物アルカロイドである riddelliine を評価対象とし、Bayesian BMD 法 (EFSA モデル) を用いてラット肝細胞の文献報告から算出した in vitro PoD と、ラット反復投与試験報告から算出した in vivo PoD における曝露濃度予測値とを比較することで、ラット評価系における課題の抽出と評価手法の妥当性の検証を実施中。</p> <p>さらに、評価対象をラット in vitro および in vivo 毒性報告のある既存化合物に広げて評価の実績を重ね、BMD 評価の有用性の確認を併せて実施している。</p>	<p>ラットでの検証を実施した後、同様のステップでヒトに対する評価を行うことで評価手法の課題を抽出し、外部専門家と連携しながら設定した評価戦略の妥当性の検証を進める。</p> <p>Riddelliine および既存化合物での課題および検証結果をまとめ、第 37 回日本動物実験代替法学会 (2024 年 11 月 29 日 ~ 12 月 1 日) での発表を計画している。</p>	
5, 6 月	<p>評価対象を植物アルカロイドで肝障害報告のある riddelliine とし、BMD 解析 (EFSA Bayesian モデル) を用いて PoD を算出して、評価スキームの検証を実施中。</p> <p>文献情報を活用し、ラット肝細胞試験における in vitro PoD と、反復投与試験における in vivo PoD の曝露濃度予測値とを比較した。同様に、ヒト肝細胞試験における in vitro PoD と、有害事象における曝露濃度予測値とを比較することで、評価スキームの検証を進めている。評価対象を食品だけでなく医薬品を含めた既存化合物に広</p>	<p>ラットおよびヒトでの検証を実施することで評価手法の課題を抽出し、外部専門家と連携しながら設定した評価戦略の妥当性の検証を進める。</p> <p>Riddelliine および既存化合物で検証結果をまとめ、第 37 回日本動物実験代替法学会 (2024 年 11 月 29 日 ~ 12 月 1 日) での発表を計画している。</p>	

	げ、BMD 解析手法の妥当性の検証を併せて実施している。		
7,8月	<p>植物アルカロイドの riddelliine を評価対象とし、BMD 解析 (EFSA Bayesian モデル) を用いて評価スキームの検証を実施中。また、BMD 解析手法の妥当性の検証を、ラット in vitro と in vivo、ヒト in vitro と in vivo とに分けて実施中。妥当性検証の対象化合物は、ラットでは壊死等の肝毒性の報告のある化合物、ヒトでは肝障害の症例報告のある医薬品とし、既存のデータベースや文献情報から選択した。検証方法は、in vitro では Bayesian BMD 解析にて算出した BMDL を、in vivo では肝障害のみられた用量における曝露濃度予測値をそれぞれ PoD とし、両者を比較することで進めている。</p> <p>併せて、発表を計画している第 37 回日本動物実験代替法学会 (2024 年 11 月 29 日～12 月 1 日) へのエントリーと抄録の提出を行った。</p>	<p>ラットおよびヒトでの検証を実施することで評価手法の課題を抽出し、外部専門家と連携しながら設定した評価戦略の妥当性の検証を進める。</p> <p>Riddelliine および既存化合物で検証結果をまとめ、第 37 回日本動物実験代替法学会 (2024 年 11 月 29 日～12 月 1 日) での発表に向けた検証を進め、選択した化合物の毒性発現機序や細胞種の特徴等から課題を抽出する予定。</p>	
9,10月	<p>植物アルカロイドの riddelliine を評価対象とし、BMD 解析 (EFSA Bayesian モデル) を用いて評価スキームの検証を実施中。また、BMD 解析手法の妥当性の検証を、ラットでは肝細胞壊死の報告があり、かつ、肝細胞を用いた細胞毒性の報告がある monocrotaline にて、ヒトでは医薬品を対象とし、トランスアミナーゼの上昇と摂取量との関係が明確で、かつ、肝細胞を用いた細胞毒性の報告がある amiodarone、valproic acid、zidovudine、nefazodone にて実施中。</p> <p>検証方法は、in vitro では Bayesian BMD 解析にて算出した BMDL を、in vivo では肝障害のみられた用量における曝露濃度予測値をそれぞれ PoD とし、両者を比較する</p>	<p>ラットおよびヒトでの検証を実施することで評価手法の課題を抽出し、外部専門家と連携しながら設定した評価戦略の妥当性の検証を進める。</p> <p>Riddelliine および既存化合物での検証結果は、第 37 回日本動物実験代替法学会で発表すると共に、ケースレポートとして発信を計画している。</p> <p>Riddelliine に続く肝障害の第 2 弾として、検証対象物質の選定を進める。</p>	

	<p>ことで進めている。これら結果は、第 37 回日本動物実験代替法学会（2024 年 11 月 29 日～12 月 1 日、演題番号：P079）での発表に向けた準備を実施中。</p>		
11, 12 月	<p>WG 成果の発信、専門家・研究者とのディスカッション、プロジェクト活動への理解を目的とし、植物アルカロイドのリデリンおよびモノクロタリンを対象とした評価スキームの検証と、4 種の医薬品（アミオダロン、バルプロ酸、ジドブジン、ネファゾドン）を用いた BMD 解析手法の妥当性検証について、第 37 回日本動物実験代替法学会（2024 年 11 月 29 日～12 月 1 日、演題番号：P079）にてポスター発表を行った。</p> <p>食品・化粧品分野等、産業界の多くの研究者から ILSI Japan AAT プロジェクトの取り組みに興味を持ってもらい、時間を超過した議論の場となった。また、代替法研究者は AAT プロジェクトとしての次の取り組み予定や、代替法での全身毒性に対する関心が高いことが窺われた。</p>	<p>今回の評価スキームの検証にて課題となったラットからヒト一連の評価について、新たな対象成分の選定と検証を、外部専門家と連携しながら進める。また、ポスター発表した内容を、ケースレポートとして発信することを計画している。</p>	

企画運営 WG（国際ワークショップ&シンポジウム WG より名称変更）

活動ビジョン・ゴール	年度目標
<p>動物実験代替法における各国の技術・規制動向に関する情報を発信することにより、食品業界における代替法の開発や取り組みの推進を促す。</p>	<p>評価技術に関する情報を収集しプロジェクト内へ共有すると共に、プロジェクトの活動内容を学会やワークショップ等を通じて発信する。</p>

	進捗・課題	予定・行動計画	関連団体等
1, 2 月	<p>食品の機能性評価における動物実験代替法の活用について、専門家の先生による講演会を企画している。第 1 回目の講演会は、熊本大学の首藤先生による「機能性食品開発に資する有用植物探索ツールと C エレガンス</p>		

	健康寿命評価技術」と題し、森下文化センターを主会場とした zoom でのハイブリッド方式で 2024 年 3 月 19 日に開催予定。参加者は AAT プロジェクト参画企業所属の方。また、食品安全委員会による講演会/勉強会の実現へ向けて、テーマや形式を明確化するためにプロジェクトメンバーに対するアンケートを実施した。結果を集計して本取り組みを具体化していく。		
3, 4 月	食品の機能性評価における動物実験代替法の活用について、専門家の先生による講演会を企画している。第 1 回目の講演会は、熊本大学の首藤先生による「機能性食品開発に資する有用植物探索ツールと C エレガンス健康寿命評価技術」と題し、森下文化センターを主会場とした Zoom でのハイブリッド方式で 2024 年 3 月 19 日に開催した。参加者は AAT プロジェクト参画企業所属の方とし、現地参加者と Web 参加者合わせて 50 名が聴講した。 現在は第 2 回目の準備を進めている。	食品の機能性評価に関する講演会は年内に 3 回の実施を予定している。また、食品安全委員会による講演会/勉強会の実現へ向けて、5 月 8 日に食品安全委員会事務局を訪問し内容の具体化へ向けて打合せを実施する。	
5, 6 月	食品の機能性評価における動物実験代替法の活用について、専門家の先生による講演会を企画している。第 2 回目の演者として筑波大学の市川先生にご講演の承諾をいただいた。講演会は胃消化シミュレータの話題を中心に森下文化センターを主会場とした Zoom でのハイブリッド方式で、2024 年 9 月 19 日（木）に開催予定である。現在は講演内容の具体化や案内文書作成等の準備を進めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・講演会へ向けた市川先生との事前打ち合わせ（7/11）。 ・第 3 回目の演者候補の先生への講演依頼。 ・食品安全委員会による勉強会の開催準備。 	
7, 8 月	食品の機能性評価における動物実験代替法の活用について、専門家の先生による講演会を企画している。第 2 回目は 2024 年 9 月 19 日（木）に筑波大学の市川先生より「食品の消化特性を評価するヒト胃消化シミュレーターの開発と応用」と題して講演いただく。第 3 回目の演者として、	<ul style="list-style-type: none"> ・講演会へ向けた佐々木先生との事前打ち合わせ。 ・食品安全委員会による勉強会の開催準備。 	

	群馬大学の佐々木先生に講演を依頼し承諾をいただいた。現在は講演内容の具体化や案内文書作成等の準備を進めている。		
9, 10 月	食品の機能性評価における動物実験代替法の活用について、プロジェクトメンバーを対象とし、専門家の先生による講演会を企画している。第2回目は2024年9月19日(木)に筑波大学の市川先生より「食品の消化特性を評価するヒト胃消化シミュレーターの開発と応用」と題して講演いただいた。現地参加者、Web聴講者を合わせておよそ50名の参加があり、大変盛況であった。第3回目は2024年11月8日(金)に、群馬大学の佐々木先生より「オルガノイドが紐解く腸内エコシステム」と題して講演いただく予定である。また、食品安全委員会による勉強会の準備も進めており、近く詳細を案内する。	<ul style="list-style-type: none"> ・食品安全委員会担当者との事前打ち合わせ。 ・来期の代替法講演会における演者選定。 	
11, 12 月	食品の機能性評価における動物実験代替法の活用について、プロジェクトメンバーを対象とし、専門家の先生による講演会を企画している。第3回目は2024年11月8日(金)に、群馬大学の佐々木先生より「オルガノイドが紐解く腸内エコシステム」と題して講演いただいた。現地参加者、Web聴講者を合わせておよそ50名の参加があり、大変盛況であった。第4回は東京大学の高橋裕先生にご講演いただくことが決定した。近く詳細を案内する予定である。また、食品安全委員会の頭金正博委員による勉強会を「食品安全委員会におけるNAMsへの取組」と題して2025年1月22日(水)に開催する。	<ul style="list-style-type: none"> ・食品安全委員会による勉強会の開催。 ・東京大学高橋先生との講演内容打合せ。 	

ILSI Japan 活動報告<2024>

バイオテクノロジー研究会

活動ビジョン・ゴール	年度目標
<p>バイオテクノロジーを用いた持続可能な食料の安定供給への貢献を念頭に、バイオテクノロジーの重要性の理解を深め、バイオテクノロジー応用食品・作物・添加物等の安全性・活用に関する調査研究と情報提供を産・学・官連携及び国際的ネットワークを通して推進し、科学的根拠に基づく国際的に調和した安全性評価法や活用法の発展に貢献する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「植物バイオテクノロジー報告書(旧「ERA プロジェクト調査報告」)(年4回) 2. バイオテクノロジー応用微生物を利用して発酵生産された食品・食品添加物等の安全性に関するワークショップ 3. 第16回 ISBR (International Society for Biosafety Research) 2024 への安全性評価の専門家の派遣 4. 遺伝子組換えナタネの ERA に関する研究成果の論文発表

	進捗・課題	予定・行動計画	関連団体等
1, 2 月	<ul style="list-style-type: none"> ・期間中に研究会は開催なし(新年度1回目は3月開催予定) ・2023年12月開催高度精製 WS の開催概要を機関誌「イルシー」No.158 に投稿するべく、初稿を演者に確認いただき、ILSI Japan 事務局編集委員会へ送付。 ・ISBR DT パラレルセッション概要の論文が掲載された。 ・「植物バイオテクノロジー調査報告」No.66 の発行に向けてスタート、原稿が集まった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「植物バイオテクノロジー調査報告」No. 66 のレビュー、発行、配布、送付先の見直し。 ・組換えナタネ論文原稿の最終化、投稿。 	農林水産省 厚生労働省 内閣府食品安全委員会 環境省 文部科学省 経済産業省 筑波大学環境系&つくば機能植物イノベーション研究センター(T-PIRC) 明治大学農学部 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構(農研機構)作物研究部門 横浜国立大学大学院環境情報研究院 千葉大学大学院園芸学部
3, 4 月	<ul style="list-style-type: none"> ・2024年度第1回研究会を3月19日に開催。 1. 2023年4月のISBRでのDTパラレルセッションの内 	<ul style="list-style-type: none"> ・「植物バイオテクノロジー調査報告」No.66 の発行、送付先の見直し、配布 No. 67 のレビュー、発行、配布、送付 	農林水産省 厚生労働省 内閣府食品安全委員会

	<p>容を Frontiers in Bioengineering and Biotechnology に投稿、英語論文、和訳と要約を作成、次回の研究会時に関係省庁へ配布することが報告された。</p> <p>2. 2023年12月開催 高度精製WSの開催概要を機関誌「イルシー」No.158に投稿した原稿を確認。出版は5月予定であることが報告された。</p> <p>3. JBA Food Plus 研究会と3月1-2日に意見交換会を実施。今後も情報交換を継続することが報告された。</p> <p>4. 植物バイオテクノロジー報告書 No.66 原稿のレビュー及び今後の運営方法について課題が定期され、議論された。</p> <p>5. TC34/SC16に関する情報のアップデートが当研究会の名誉会長からなされた。</p> <p>6. 遺伝子組換え青色胡蝶蘭「Blue gene」の研究開発に関して機関誌「イルシー」No. 161に掲載が決定 出版は2025年2月。</p>	<p>先の見直し。 ・組換えナタネ論文原稿の最終化、投稿。</p>	<p>環境省 文部科学省 経済産業省 筑波大学環境系&つくば機能植物イノベーション研究センター (T-PIRC) 明治大学農学部 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構(農研機構)作物研究部門 横浜国立大学大学院環境情報研究院 千葉大学大学院園芸学部</p>
<p>5,6月</p>	<p>・2024年度第2回研究会を6月6日に開催。</p> <p>1. 2023年4月のISBRでのDTパラレルセッションの内容を Frontiers in Bioengineering and Biotechnology に投稿、英語論文、和訳と要約を作成。関係省庁へ配布され、論文2報と併せてILSIのウェブサイトに掲載されたことが報告された。</p> <p>2. 2023年12月開催 高度精製ワークショップの開催概要を機関誌「イルシー」No.158に投稿した原稿を確認。5月に出版されたことが報告された。</p> <p>3. 【Novel Food、フードテック、精密発酵 関連 各国認可・レギュラトリー状況の調査研究】 精密発酵の事例の分別、各国の規制状況を整理した review ペーパーを作成し、</p>	<p>・植物バイオテクノロジー報告書 No. 67 のレビュー、発行、配布 ・組換えナタネ論文原稿の最終化、投稿 ・精密発酵の事例、各国の規制状況の調査 ・第17回 ISBR2025 専門家派遣のプロジェクト化可否の審議</p>	<p>農林水産省 消費者庁 内閣府食品安全委員会 環境省 文部科学省 経済産業省 筑波大学環境系&つくば機能植物イノベーション研究センター (T-PIRC) 明治大学農学部 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構(農研機構)作物研究部門 横浜国立大学大学院環境情報研究院 千葉大学大学院園芸学部</p>

	<p>当局へ提出、シンポジウムでの発表等に用いるとの提案がなされた。</p> <p>4. 植物バイオテクノロジー報告書 No.66 の発行、送付先の見直し、配布</p> <p>5. 植物バイオテクノロジー報告書 No.67 原稿のレビュー及び今後の運営方法について課題が提起され、議論された。</p> <p>6. 遺伝子組換え青色胡蝶蘭「Blue gene」の研究開発に関して機関誌「イルシー」No. 161 に掲載が決定。出版は2025年2月。</p>		
7, 8 月	<ul style="list-style-type: none"> ・次回定例会は9月開催 ・植物バイオテクノロジー報告書 No. 67 の発行の準備 ・組換えナタネ論文原稿の最終化、投稿、レビュワーからのコメント対応 ・精密発酵の事例、各国の規制状況の調査 ・2024年度高度精製品ワークショップ企画準備 	<ul style="list-style-type: none"> ・植物バイオテクノロジー報告書 No. 67 の発行、配布 ・植物バイオテクノロジー報告書 No. 68 のレビュー、発行準備 ・組換えナタネ論文アクセプト ・精密発酵の事例、各国の規制状況の調査 ・第17回 ISBR2025 専門家派遣のプロジェクト化可否の審議 ・2024年度高度精製品ワークショップ開催 	<p>農林水産省 消費者庁 内閣府食品安全委員会 環境省 文部科学省 経済産業省 筑波大学環境系&つくば機能植物イノベーション研究センター(T-PIRC) 明治大学農学部 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構(農研機構)作物研究部門 横浜国立大学大学院環境情報研究院 千葉大学大学院園芸学部</p>
9, 10 月	<ul style="list-style-type: none"> ・2024年度第3回研究会を9月17日に開催。 1. GM Soy with familiar traits の局長通知改正に関する Update/GM Canola 論文の Update: 2025年の計画として9月に ERA ワークショップ、11月に ISBR に参画することが発表された。10月22日の部会長会議で承認を得ることとなった 2. 【Novel Food、フードテック、精密発酵 関連 各国認可・レギュラトリー状況の調査研 	<ul style="list-style-type: none"> ・植物バイオテクノロジー報告書 No. 68 の発行、配布 ・植物バイオテクノロジー報告書 No. 69 のレビュー、発行準備 ・組換えナタネ論文アクセプト ・精密発酵の事例、各国の規制状況の調査 ・第17回 ISBR2025 専門家派遣のプロジェクト化可否の審議 ・2024年度高度精製品ワークショップ開催 	<p>農林水産省 消費者庁 内閣府食品安全委員会 環境省 文部科学省 経済産業省 筑波大学環境系&つくば機能植物イノベーション研究センター(T-PIRC) 明治大学農学部 国立研究開発法人農業・食品産業技術</p>

	<p>究】 精密発酵の事例と規制を紹介。また、リスクコミュニケーションの専門家を招致し登壇いただく予定。</p> <p>4. 植物バイオテクノロジー報告書 No.69 原稿のレビュー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精密発酵の事例、各国の規制状況の調査。 ・2024年度高度精製品ワークショップ企画準備。 		<p>総合研究機構(農研機構)作物研究部門 横浜国立大学大学院環境情報研究院 千葉大学大学院園芸学部</p>
11, 12月	<ul style="list-style-type: none"> ・組換えナタネの環境リスク評価(ERA)に関する論文がアクセプトされた。 ・植物バイオテクノロジー報告書 No. 68 号の発行、配布 ・2024年度第4回研究会を12月16日に開催。 <ul style="list-style-type: none"> i. GM作物関連 <ul style="list-style-type: none"> ✓ GM Canola 論文の Update: 2025年の計画として8~9月にERAワークショップを開催、当該論文とデータトランスポートビリティ(DT)をテーマにすることが共有された。 ✓ ベルギー・ゲントで2025年11月に開催されるISBRにおいて、① DT、② 日本におけるスタック評価、③ ゲノム編集技術規制、④ 新規タンパク質評価の4つのセッションの企画をsubmitした。1月初旬にacceptされたか判明する予定。 ii. 11月開催の部会長会議について報告された。 iii. 当日午後開催の[組換え微生物を用いて発酵生産された添加物・食品の安全性評価～発酵生産し、精製した特定の食品成分の安全性に関して～WS]に関し、参加者数など説明された。 iv. 植物バイオテクノロジー報告書 No.69 号原稿のレビュー 2. 組換え微生物を用いて発酵生産された添加物・食品の安全性評価～発酵生産し、精製した特定の食品成分の安全性に関して～ 	<ul style="list-style-type: none"> ・植物バイオテクノロジー報告書 No. 69 号発行準備 ・精密発酵の事例、各国の規制状況の調査 ・第17回 ISBR2025 専門家派遣プロジェクトの準備開始 ・石原産業が開発した「遺伝子組換え青色ファレノプシス Blue Gene」が機関誌「イロシー」に掲載予定 ・データトランスポートビリティ(DT)に関するワークショップ開催 ・2025年度高度精製品ワークショップ開催 	<p>農林水産省 消費者庁 内閣府食品安全委員会 環境省 文部科学省 経済産業省 筑波大学環境系&つくば機能植物イノベーション研究センター (T-PIRC) 明治大学農学部 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構(農研機構)作物研究部門 横浜国立大学大学院環境情報研究院 千葉大学大学院園芸学部 東洋大学 生命科学部 生物資源学科 東京大学大学院農学生命科学研究科 食の安全研究センター</p>

	<p>WS を開催。 日時：2024 年 12 月 16 日（月） 15:00～18:00 場所：江東区文化センター第一 ・第二会議室（対面形式） 参加人数：演者 7 名、聴講者 67 名</p> <p>プログラム</p> <p>15:00-15:10 本 WS の意義 加村澄子（ILSI Japan）</p> <p>15:10-15:30 フードテック（精密発酵）に関する国内外の規制動向 高橋無盡（ILSI Japan）</p> <p>15:30-15:50 精密発酵のリスクコミュニケーションを考える-遺伝子組換えやゲノム編集のケースを振り返って- 佐々義子氏（くらしとバイオプラザ 21 常務理事）</p> <p>16:15-17:50 総合討論 児玉浩明先生（千葉大学） 中島春紫先生（明治大学） 山川隆先生（東京大学） 伊藤政博先生（東洋大学） 佐々義子氏 （くらしとバイオプラザ 21） 奥藤加奈子氏 （内閣府食品安全委員会事務局） 佐藤健太氏（消費者庁） 高橋無盡（ILSI Japan） （司会：加村澄子）</p> <p>17:50-18:00 ワークショップのまとめと閉会の挨拶</p>		
--	---	--	--

栄養健康研究会

【栄養研究部会】

活動ビジョン・ゴール	年度目標
<p>「健康寿命延伸」はグローバルな持続可能な開発目標 SDGs の目標 3「すべての人に健康と福祉を」に合致することから、「健康寿命延伸」をキーワードとした活動を継続する。</p>	<p>「健康長寿延伸」のための最新のエビデンスを継続して発信していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 公開セミナー（有料）を Zoom ミーティングで 1 年に数回開催する。 ● セミナー参加登録者に対しては、オンデマンド配信を実施する。

	進捗・課題	予定・行動計画	関連団体等
<p>1, 2 月</p>	<p>2023 年からは、活動テーマを「健康寿命延伸に向け、各世代で解決すべき課題と対策とは」とし、「世代別の健康と栄養」に関する公開セミナーをシリーズ化して開催する。</p> <p>進捗は、以下の通り。</p> <p>① 部会を開催し、第 4 回公開セミナー（2024 年 6 月 Zoom 開催）までのスケジュールと今後の活動について検討した（2/29）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 第 4 回セミナーの候補日（仮）を 6/19 とし、講師の先生方に打診することにした。 ● セミナー開催当日の担当（Zoom ホスト、共有ホスト、画面共有、司会などの担当）を割り当てた。 ● 今後については、4 月の部会で改めて検討することにした。 	<p>実績は、以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 第 3 回公開セミナー「健康寿命延伸に向け、各世代で解決すべき課題と対策とは：中高年期編」を 2 月 16 日（金）に開催（Zoom）。 ● 参加登録数：95 名（一般企業、大学、学校、医療機関等の非会員および ILSI Japan 会員企業） ● 参加登録者へのオンデマンド配信開始：2024 年 2 月 28 日（水）～2024 年 3 月 28 日（木） <p>計画は、以下の通り。</p> <p>第 4 回公開セミナー「健康寿命延伸に向け、各世代で解決すべき課題と対策とは：老年期編」を 2024 年 6 月に開催予定（日程調整中）。</p>	
<p>3, 4 月</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 2023 年度から活動テーマを「健康寿命延伸に向け、各世代で解決すべき課題と対策とは」とし、「世代別の健康と栄養」に関する公開セミナーをシリーズ化して開催している。 ● 部会を対面開催し、第 4 回公開セミナー「健康寿命延伸に向け、各世代で解決すべき課題と対策とは：老年期編」（6 月 19 日 Zoom 	<ul style="list-style-type: none"> ● 以下の通り、第 4 回公開セミナー「健康寿命延伸に向け、各世代で解決すべき課題と対策とは：老年期編」を開催予定。 <p>日時：6 月 19 日（水）13:20 ～15:30</p> <p>場所：オンライン（Zoom）</p> <p>定員：480 名</p> <p>講師と演題：成田美紀先生</p>	

	<p>開催)までの作業スケジュールの確認と今後の活動について意見交換した(4/9)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2024年度の公開セミナーシリーズは第4回で一旦終了する。 ・その後、可能な限り対面で部会を開催し、2025年度以降の活動について議論を継続する。 	<p>(東京通信大学 人間福祉学部)「健康寿命の延伸に向けた老年期の栄養・食生活の在り方を再考する」、清野諭先生(山形大学 Well-Being 研究所)「これからの高齢者の身体活動・運動のあり方を考える:最新のガイドライン等を踏まえて」</p> <p>参加登録:5月1日から ILSI Japan HP の専用サイトで登録受付開始</p> <ul style="list-style-type: none"> ・以下の通り、部会を開催予定。 <p>5月15日(水) (オンライン)</p> <p>9月20日(金) (対面)</p>	
5,6月	<ul style="list-style-type: none"> ・第4回公開セミナー「健康寿命延伸に向け、各世代で解決すべき課題と対策とは:老年期編」を開催した。詳細は以下の通り。 日時:6月19日(水)13:20~15:30 場所:オンライン (Zoom) 参加登録者数:88名 講師と演題:成田美紀先生(東京通信大学 人間福祉学部)「健康寿命の延伸に向けた老年期の栄養・食生活の在り方を再考する」、清野諭先生(山形大学 Well-Being 研究所)「これからの高齢者の身体活動・運動のあり方を考える:最新のガイドライン等を踏まえて」 ・上記の公開セミナー終了後、講師2名と栄養研究部会員でオンライン懇話会を実施した。 ・2024年度第4回部会を5/15に開催し、上記公開セミナーの最終打ち合わせ、および今後の部会活動についての意見交換を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2024年度の公開セミナーシリーズは第4回で一旦終了し、今後はできる限り対面で部会を開催し、2025年度以降の活動について議論を継続する。 ・第4回公開セミナーのオンデマンド配信を7月1日~7月31日に実施予定。 ・2024年度第5回部会を9月20日(金)に花王(株)すみだ事業場(墨田区)にて、第6回部会を10月25日(金)に森下文化センター(江東区)にて開催予定。 	
7,8月	<ul style="list-style-type: none"> ● 6月19日に開催した第4回公開セミナー「健康寿命延伸に向け、各世代で解決すべき課題と対策とは:老年期編」のオンデマンド配信を7月1日 	<ul style="list-style-type: none"> ● 2024年度の公開セミナーシリーズは第4回で一旦終了し、今後はできる限り対面で部会を開催し、2025年度以降の活動につ 	

	<p>～7月31日に実施した（視聴回数53回）。本セミナーの講師と演題は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 成田美紀先生（東京通信大学人間福祉学部）「健康寿命の延伸に向けた老年期の栄養・食生活の在り方を再考する」 ● 清野諭先生（山形大学Well-Being研究所）「これからの高齢者の身体活動・運動のあり方を考える：最新のガイドライン等を踏まえて」 	<p>いて議論を継続する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 2024年度第5回部会を9月20日（金）に花王㈱すみだ事業場（墨田区）にて、第6回部会を10月25日（金）に森下文化センター（江東区）にて開催予定。 	
9, 10月	<p>2024年度第5回部会を9月20日（金）に花王㈱すみだ事業場（墨田区）にて、第6回部会を10月25日（金）に森下文化センター（江東区）にて開催。2025年度以降の部会活動方針、活動テーマについて、意見交換をおこなった。</p>	<p>次回部会開催は年明け2025年度の予定（日程は未定）。</p>	
11, 12月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2025年の勉強会の企画および開催に向けた準備 ・ ILSI Japan のホームページリニューアルに向けて、栄養研究部会の掲載内容を見直し、更新案作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2025年度第1回定例会議を2月14日（金）明治イノベーションセンター（八王子）にて開催予定 ・ 2025年3月13日（木）に栄養プロファイルシステム（NPS）についての勉強会を開催予定（場所：森下文化センター、講師：瀧本秀美先生、詳細決定次第、会員に案内予定） 	

ILSI Japan 活動報告<2024>

栄養健康研究会

【GR プロジェクト】

活動ビジョン・ゴール	年度目標
食品・食事の血糖応答性の簡易評価法（GR 法）の確立と普及	（1-2 月度） GR 法の確立・発表 論文発表
	（3-4 月度）より変更 GR 法の確立・発表 論文発表 他施設研究を基礎とした測定系の安定化および簡易化を目標とする

	進捗・課題	予定・行動計画	関連団体等
1, 2 月	論文再投稿準備 GR 法詳細条件の検討	論文発表 GR 法に関する討論会の開催	
3, 4 月	これまでの施設数で行った測定結果をまとめ論文として発表する。 測定の安定化をさらに図るため大学等の施設での検討を依頼し結果をまとめる。	論文再投稿準備 GR 法詳細条件の検討 GI 値との比較検討	昭和女子大学 食健康科学部 健康デザイン学科 日本食品分析センター
5, 6 月	低GI 食品を含めた代表的な食品の GR 値の測定ならびに測定の安定化を図るための詳細条件の検討を進めた。	論文再投稿準備 GR 法詳細条件の検討 GI 値との比較検討	昭和女子大学 食健康科学部 健康デザイン学科 日本食品分析センター
7, 8 月	低GI 食品を含めた代表的な食品の GR 値の測定ならびに測定の安定化を図るための詳細条件の検討を進めた。	論文再投稿準備 GR 法詳細条件の検討 GI 値との比較検討	昭和女子大学 食健康科学部 健康デザイン学科 日本食品分析センター
9, 10 月	低GI 食品を含めた代表的な食品の GR 値の測定ならびに測定の安定化を図るための詳細条件の検討を進めた。	論文再投稿準備 GR 法詳細条件の検討 GI 値との比較検討	昭和女子大学 食健康科学部 健康デザイン学科 日本食品分析センター
11, 12 月	低GI 食品を含めた代表的な食品の GR 値の測定ならびに測定の安定化を図るための詳細条件の検討を	論文再投稿準備 GR 法詳細条件の検討 GI 値との比較検討	昭和女子大学 食健康科学部 健康デザイン学科

	進めた。また、これまでの内容をまとめて、学会で発表をするための準備を進めた。		日本食品分析センター
--	--	--	------------

ILSI Japan 活動報告<2024>

栄養健康研究会

【茶類研究部会・茶情報分科会】

活動ビジョン・ゴール	年度目標
茶樹に係わりその成分の世界的な多様さ、飲料 その他商品に係わり各種茶成分の機能性、研 究・開発・商品化等につき会員相互間の情報交 換を深めると共に、外部からも情報を得る。	—

	進捗・課題	予定・行動計画	関連団体等
1, 2月	—	—	—
3, 4月	—	—	—
5, 6月	—	—	—
7, 8月	—	—	—
9, 10月	—	—	—
11, 12月	—	—	—

ILSI Japan 活動報告<2024>

CHP (Center for Health Promotion)

◆CHP 全体

活動ビジョン・ゴール	年度目標
日本の産・官・学界に蓄積された栄養学、医学、公衆衛生、衛生環境等の分野における科学的知識および技術を、国内および世界的に共通な課題の解決に活用し、SDGs に基づいた社会貢献を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ➤ SUN Business Network Japan（仮称：SBNJ）事務局機能誘致に向けた活動継続。 ➤ SDGs 貢献プラットフォームの形成。

	進捗・課題	予定・行動計画	関連団体等
1, 2 月	SBN 本部とのセミナー開催に向けた打合せを実施（1/31）	セミナー開催後の ILSI Japan の役割具体化を目指す	SUN Business Network Indonesia
3, 4 月	進捗無し	ILSI Japan の役割具体化を目指す	SUN Business Network Indonesia
5, 6 月	進捗無し		SUN Business Network Indonesia
7, 8 月	進捗無し		
9, 10 月	進捗無し		
11, 12 月	進捗無し		

ILSI Japan 活動報告<2024>

CHP (Center for Health Promotion)

◆Project PAN (Physical Activity and Nutrition) “身体活動と栄養” プロジェクト

活動ビジョン・ゴール	年度目標
超高齢化が進む国内において、働きざかりの人々や高齢者の健康維持を支援する、運動と栄養の複合プログラムの開発と実践	<ul style="list-style-type: none"> ヘルシーエイジングのためのプログラムの開発・普及 介護予防教室の開催（自治体、社会福祉協議会、企業） 地域リーダーの育成（大学、社会福祉協議会、シルバー人材センター） 論文等、科学的成果の発信

	進捗・課題	予定・行動計画	関連団体等
1, 2 月	<ul style="list-style-type: none"> 2023 年度「すみだテイクテン教室」委託事業報告書作成 2023 年度「すみだテイクテン教室」の概要とその効果について すみだテイクテン自主グループ支援 教室終了後の新規グループの立ち上げと既存グループへの支援 	<ul style="list-style-type: none"> 論文投稿準備 ホームページリニューアル 	<ul style="list-style-type: none"> 石巻専修大学 鹿児島大学 島根大学 札幌医科大学 東京都健康長寿医療センター研究所 国立健康長寿医療センター 墨田区 横浜市社会福祉協議会 岩国市社会福祉協議会 吉賀町社会福祉協議会 津和野町シルバー人材センター 益田市シルバー人材センター
3, 4 月	<ul style="list-style-type: none"> 墨田区委託事業 2023 年度すみだテイクテン教室報告書提出（3 月） 2024 年度すみだテイクテン春教室開催（4/25, すみだ生涯学習センターユートリヤ） 学会発表（共同演者） 	<ul style="list-style-type: none"> 論文投稿準備 ホームページリニューアル 	<ul style="list-style-type: none"> 石巻専修大学 鹿児島大学 島根大学 札幌医科大学 東京都健康長寿医療センター研究所

	<p>第34回日本老年医学会九州地方会「地域在住高齢者における身体活動および食品多様性と軽度認知障害との関連」(3/2, 鹿児島大学稲盛会館)</p> <p>・共著論文受理 雑誌名: Annals of Geriatric Medicine and Research タイトル: Associations of eating out and dietary diversity with mild cognitive impairment among community-dwelling older adults (4/11 公開)</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・国立健康長寿医療センター ・墨田区 ・横浜市社会福祉協議会 ・岩国市社会福祉協議会 ・吉賀町社会福祉協議会 ・津和野町シルバー人材センター ・益田市シルバー人材センター
5, 6月	<ul style="list-style-type: none"> ・墨田区委託事業 2024年度すみだテイクテン春教室開催(5/9, 16, 23, 30, 6/6, 13, 20, 27, すみだ生涯学習センターユートリヤ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・論文投稿準備 ・ホームページリニューアル 	<ul style="list-style-type: none"> ・石巻専修大学 ・鹿児島大学 ・島根大学 ・札幌医科大学 ・東京都健康長寿医療センター研究所 ・国立健康長寿医療センター ・墨田区 ・横浜市社会福祉協議会 ・岩国市社会福祉協議会 ・吉賀町社会福祉協議会 ・津和野町シルバー人材センター ・益田市シルバー人材センター
7, 8月	<ul style="list-style-type: none"> ・原著論文発表 「Dietary variety and nutrient intake among Japanese community-dwelling older adults: A cross sectional study」Kimura M, Moriyasu A, Miyazaki R. Aging and Health Research に掲載 https://www.sciencedirect.com/science/article/pii/S2667032124000210 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページリニューアル ・墨田区委託事業「すみだテイクテン」秋教室 	<ul style="list-style-type: none"> ・石巻専修大学 ・鹿児島大学 ・島根大学 ・札幌医科大学 ・東京都健康長寿医療センター研究所 ・国立健康・栄養研究所 ・国立健康長寿医療センター

	<ul style="list-style-type: none"> ・共著原著論文発表 「Associations of Eating Out and Dietary Diversity with Mild Cognitive Impairment among Community-Dwelling Older Adults」Kiuchi Y ら Annals of Geriatric Medicine and Research に掲載 ・内閣府 戦略的イノベーション創造プログラム (SIP) 第3期「包摂的コミュニティプラットフォームの構築」課題D「障がい者・高齢者の生きがい向上策」へ協力参加機関として参画 		<ul style="list-style-type: none"> ・墨田区 ・横浜市社会福祉協議会 ・岩国市社会福祉協議会 ・吉賀町社会福祉協議会 ・津和野町シルバー人材センター ・益田市シルバー人材センター
9, 10 月	<ul style="list-style-type: none"> ・東京都墨田区委託事業 介護予防教室「すみだテイクテン教室」秋教室開催 すみだ共生社会推進センター (10/15, 10/29) 八広地域プラザ (10/16, 10/30) ・東京家政学院大学 2 年次栄養プロデュース実習 実習生 4 班 10 名受け入れ予定 前半チーム (1 班 2 班) (10/10~10/30) ・TAKE10! @ Web サイトリニューアル公開 ・内閣府 戦略的イノベーション創造プログラム (SIP) 第3期「包摂的コミュニティプラットフォームの構築」課題D「障がい者・高齢者の生きがい向上策」へ協力参加機関として参画 	<ul style="list-style-type: none"> ・墨田区委託事業「すみだテイクテン」秋教室 ・津和野町シルバー人材センター主催リーダー養成講座 	<ul style="list-style-type: none"> ・石巻専修大学 ・鹿児島大学 ・島根大学 ・札幌医科大学 ・東京都健康長寿医療センター研究所 ・国立健康・栄養研究所 ・国立健康長寿医療センター ・墨田区 ・横浜市社会福祉協議会 ・岩国市社会福祉協議会 ・吉賀町社会福祉協議会 ・津和野町シルバー人材センター ・益田市シルバー人材センター
11, 12 月	<ul style="list-style-type: none"> ・東京都墨田区委託事業 介護予防教室「すみだテイクテン教室」秋教室開催 すみだ共生社会推進センター (11/5, 11/12, 11/19, 11/26, 12/3, 12/10, 12/17) 八広地域プラザ 	<ul style="list-style-type: none"> ・墨田区委託事業「すみだテイクテン」秋教室 ・津和野町シルバー人材センター主催リーダー養成講座 	<ul style="list-style-type: none"> ・石巻専修大学 ・鹿児島大学 ・島根大学 ・札幌医科大学 ・東京都健康長寿医療センター研究所

	<p>(11/6, 11/13, 11/20, 11/27, 12/4, 12/11, 12/18)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京家政学院大学 2 年次栄養プロ デュース実習 実習生 4 班 10 名 受け入れ予定 後半チーム (3 班 4 班) (12/5~12/18) ・内閣府 戦略的イノベーション創 造プログラム (SIP) 第 3 期「包摂的コミュニティプラ ットフォームの構築」課題 D「障 がい者・高齢者の生きがい向上 策」へ協力参加機関として参画 		<ul style="list-style-type: none"> ・国立健康・栄養 研究所 ・国立健康長寿医 療センター ・墨田区 ・横浜市社会福祉 協議会 ・岩国市社会福祉 協議会 ・吉賀町社会福祉 協議会 ・津和野町シルバ ー人材センター ・益田市シルバ ー人材センター
--	---	--	---

CHP (Center for Health Promotion)

**◆Project DIET (Dietary Improvement and Education with TAKE 10!®)
“途上国栄養改善と栄養教育”プロジェクト**

活動ビジョン・ゴール	年度目標
途上国、新興国における官民連携の栄養改善の取組み「栄養改善事業推進プラットフォーム」(NJPPP) のプロジェクトとして、工場など職場の栄養改善プロジェクトを東南アジア各国で推進。	<p><フィリピン> 「フィリピンの栄養強化米プロジェクト 2022 (調査研究)」 2024 年パリ栄養サミットに向けプロジェクトの総括を実施。</p> <p><ベトナム> 「ベトナムにおける野菜の摂取行動に影響を与える要因調査」 ビジネスモデル構築、並びに 2024 年パリ栄養サミットに向けプロジェクトの総括を実施。</p> <p><ミャンマー> 「完全オンラインによるブロックチェーン技術を応用した職場における栄養教育」 栄養教育推進に焦点を当てたビジネスモデル構築に向けた展開を計画。</p> <p><インドネシア> 「インドネシアにおける健康的な食事の普及に関する調査 2022」 ビジネスモデル構築、並びに 2024 年パリ栄養サミットに向けプロジェクトの総括を実施。</p>

	進捗・課題	予定・行動計画	関連団体等
1,2月	<p><フィリピン> 本年度プロジェクト立案無し</p> <p><ベトナム> 本年度プロジェクト立案無し</p> <p><ミャンマー> 本年度プロジェクト立案無し</p> <p><インドネシア> 1回/月のペースで Web 会議を実施し、ビジネスモデル構築に向けたポイントについて協議 (1) 提供する製品形態 (2) 食事摂取推奨量 (主要栄養素) (3) 健康的な食事の基準</p>	<p><フィリピン></p> <p><ベトナム></p> <p><ミャンマー></p> <p><インドネシア> Web 会議を通じてプロジェクトのフォローを継続</p>	<p><フィリピン> Food and Nutrition Research Institute (FNRI: フィリピン食品健康研究所)</p> <p><ベトナム> National Institute of Nutrition (ベトナム栄養研究所)</p>

	<p>(4) 質問票の内容（消費者の購買意欲を高める手法、建前の正解ではなく本質を聞き出す方法）</p> <p>(5) Take10 Sheet の使用</p>		<p><ミャンマー> National Institute of Nutrition</p> <p><インドネシア> ボゴール農科大学（現 IPB Univ.）</p>
3,4月	<p><フィリピン> 本年度プロジェクト立案無し</p> <p><ベトナム> 本年度プロジェクト立案無し</p> <p><ミャンマー> 本年度プロジェクト立案無し</p> <p><インドネシア> ILSI 対応箇所を含むプロジェクトの最終報告書が大林組から NJPPP へ提出され、今年度終了（3/14）。</p>	<p><フィリピン></p> <p><ベトナム></p> <p><ミャンマー></p> <p><インドネシア> 大林組の令和6年度活動継続に合わせて対応を検討</p>	<p><フィリピン> Food and Nutrition Research Institute (FNRI: フィリピン食品栄養研究所)</p> <p><ベトナム> National Institute of Nutrition (ベトナム栄養研究所)</p> <p><ミャンマー> National Institute of Nutrition</p> <p><インドネシア> ボゴール農科大学（現 IPB Univ.）</p>
5,6月	<p><フィリピン> 本年度プロジェクト未定</p> <p><ベトナム> 本年度プロジェクト未定</p> <p><ミャンマー> 本年度プロジェクト未定</p> <p><インドネシア> 本年度プロジェクト未定</p>	<p><フィリピン></p> <p><ベトナム></p> <p><ミャンマー></p> <p><インドネシア></p>	<p><フィリピン> Food and Nutrition Research Institute (FNRI: フィリピン食品栄養研究所)</p> <p><ベトナム> National Institute of Nutrition (ベトナム栄養研究所)</p> <p><ミャンマー> National Institute of Nutrition</p> <p><インドネシア> ボゴール農科大</p>

			学（現 IPB Univ.）
7, 8月	<フィリピン> 本年度プロジェクト実施せず <ベトナム> 本年度プロジェクト実施せず <ミャンマー> 本年度プロジェクト実施せず <インドネシア> 本年度プロジェクト実施せず	<フィリピン> <ベトナム> <ミャンマー> <インドネシア>	<フィリピン> Food and Nutrition Research Institute (FNRI: フィリピン食品栄養研究所) <ベトナム> National Institute of Nutrition (ベトナム栄養研究所) <ミャンマー> National Institute of Nutrition <インドネシア> ボゴール農科大学（現 IPB Univ.）
9, 10月	<フィリピン> 本年度プロジェクト実施せず <ベトナム> 本年度プロジェクト実施せず <ミャンマー> 本年度プロジェクト実施せず <インドネシア> 本年度プロジェクト実施せず	<フィリピン> <ベトナム> <ミャンマー> <インドネシア>	<フィリピン> Food and Nutrition Research Institute (FNRI: フィリピン食品栄養研究所) <ベトナム> National Institute of Nutrition (ベトナム栄養研究所) <ミャンマー> National Institute of Nutrition <インドネシア> ボゴール農科大学（現 IPB Univ.）
11, 12月	<フィリピン> 本年度プロジェクト実施せず <ベトナム> 本年度プロジェクト実施せず	<フィリピン> <ベトナム>	<フィリピン> Food and Nutrition Research Institute

	<p><ミャンマー> 本年度プロジェクト実施せず</p> <p><インドネシア> 本年度プロジェクト実施せず</p>	<p><ミャンマー></p> <p><インドネシア></p>	<p>(FNRI: フィリ ピン食品栄養研 究所)</p> <p><ベトナム> National Institute of Nutrition (ベト ナム栄養研究所)</p> <p><ミャンマー> National Institute of Nutrition</p> <p><インドネシア> ボゴール農科大 学 (現 IPB Univ.)</p>
--	--	--	---

ILSI Japan 活動報告<2024>

国際協力委員会

活動ビジョン・ゴール	年度目標
アジアの ILSI 各支部間の交流による食品法規 動向及びリスク評価等の情報収集・共有化と ILSI Japan 関係者への成果報告	(1-2 月度) 10 月 26-27 日開催予定の Asia Science Institute Network (ALSIN) 会議 (アジア地域 ILSI 支部 との情報交換会) への参加、情報交換
	(3-4 月度より変更) 9 月 19, 20 日開催予定の Asia Life Sciences Institutes Network (ALSIN) 会議 (アジア地域 ILSI 支部との情報交換会) への参加、情報交換

	進捗・課題	予定・行動計画	関連団体等
1, 2 月	<p><進捗></p> <ul style="list-style-type: none"> 「イルシー」誌投稿：日本講演者の原稿は投稿終了。海外演者講演内容につき原稿作成中。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 「イルシー」誌への投稿完了 	次回委員会にて今年度の活動計画を審議予定。4 月中の開催を予定。	アジア各支部
3, 4 月	<p><進捗></p> <ul style="list-style-type: none"> 「イルシー」誌投稿：投稿・初校確認終了 4/25 委員会開催。以下の課題について意見交換し検討を進めた。 <p><課題></p> <p>① ALSIN 会議・シンポジウム対応</p> <ul style="list-style-type: none"> スケジュール・参加形態・発表テーマ等の詳細確認 発表テーマ・発表者の確定 シンポジウム講師打診 <p>② 6 月 ILSI 台湾の訪日対応</p> <ul style="list-style-type: none"> 6/21 意見交換会対応 	<p>5 月下旬から 6 月上旬に委員会を開催し、以下について検討を進める。</p> <p>ALSIN 会議・シンポジウム対応 (詳細確認までは昨年を参考に下記スケジュールで進めることとする)</p>	
5, 6 月	<p><進捗></p> <ol style="list-style-type: none"> 「イルシー」誌投稿：掲載終了 6/4 委員会開催。以下の課題に 	1. 7 月 22 日に委員会を開催し、ALSIN 会議 (参加者・演題) について確認と検討を	

	<p>ついて意見交換し検討を進めた。</p> <p><課題></p> <p>① ALSIN 会議・シンポジウム対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果の確認 ・発表テーマ・発表者の確定 <p>② 6月 ILSI Taiwan の訪日対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪日日程随希望の確認 ・6/21 意見交換会対応 <p>3. ILSI 台湾訪日の対応：6/21 意見交換会。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・AAT プロジェクトより現在の取り組みについてご講演いただいた。 ・国際協力委員会として、以下2件を報告し、ディスカッションを行った。 <ul style="list-style-type: none"> 1) 紅麴問題 2) 食物アレルギー分析法に関するコラボテーマについて 	<p>進める。</p> <p>2. ILSI Korea より、2018 年に続き MFDS (Ministry of Food and Drug Safety) の訪日 (機能性表示食品に関する意見交換) 希望があることから協力の要請あり、対応を検討中。</p>	
7,8月	<p><進捗></p> <p>1. 7/22 委員会開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ILSI 台湾訪日対応：結果報告 ・ALSIN 会議対応：発表テーマと発表者の確定 <p>*各自で準備を進め、次回委員会で内容を共有することとなった。</p> <p>2. 8月 27・28日 委員会開催 (Web)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ALSIN 会議対応：各担当者による発表資料の内容紹介 <p>*締め切りに合わせ内容を確定し委員会内でも共有することとした。</p> <p><課題></p>	<p>1. ALSIN 会議に出席する。</p> <p>2. 委員会を開催し、今後の計画を話し合う。</p> <p>3. 参加者内で分担し「イルシー」誌への投稿を行う。</p>	

	<p>① ALSIN 会議対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表テーマ・発表者の確定 ・発表内容の確認 ・「イルシー」誌への投稿 		
9, 10 月	<p><進捗></p> <p>1. 9/20 ALSIN 会議参加 開催場所：ソウル 主催：ILSI 韓国支部 ILSI Japan 出席人数 対面：5 名（事務局含む） Web：5 名</p> <p>2. 「イルシー」誌原稿分担、執筆開始</p>	<p>1. 委員会を開催し、ALSIN 会議の振り返りと今後の計画について話し合う。</p> <p>2. 部会長会議にて活動状況を報告する。</p> <p>3. 参加者内で分担し「イルシー」誌への投稿を行う</p>	
11, 12 月	<p><進捗></p> <p>11/1 部会長会議にて、今期の活動状況を報告</p> <p>11/5 国際協力委員会開催、活動の振り返りと来期の目標について提案、了承を得た。 「イルシー」誌への投稿は初校の確認まで終了している。</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動の継続性 ・次々回 ALSIN 会議日本開催の可能性 	<p><予定></p> <ul style="list-style-type: none"> ・年明けに会議を開催し、当期の活動について相談する。 <p><行動計画></p> <ul style="list-style-type: none"> ・2024 年 ALSIN 会議で了承されたコラボの取り組みに関する確認・必要に応じ委員会で分担作業 ・2025 年 ALSIN 会議への出席に向けた準備 	

ILSI Japan 活動報告<2024>

食品機能性研究会

【AI 栄養・機能性研究部会】

◆AI 栄養機能プロジェクト（～3月まで）

活動ビジョン・ゴール	年度目標
実生活から創出される莫大な量のリアルワールドデータについて、最新のデータサイエンスおよびAI技術を活用し、様々な生活習慣と健康との関係性を解明することで、一人ひとりに適した情報提供を可能とするAIシステムを構築する。	<ul style="list-style-type: none"> ・フレイル予測モデル論文化 ・フレイルナレッジグラフ作成 ・ナレッジグラフスキル（育成） ・北大阪健康医療都市（健都）での発信

	進捗・課題	予定・行動計画	関連団体等
1, 2月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 月次運営会議（1月）、（2月）を実施し、プロジェクト全体の進捗確認、課題・スケジュールを確認、更新。 ○和食 WG：和食に着目してコホートデータ解析。 ○予測モデル WG：論文執筆中。 ○フレイルナレッジグラフスキル WG：生成AIを連動した高度な処理スキルの紹介とトライアル。 	<ul style="list-style-type: none"> ○第1期の活動総括 ○AI 栄養機能プロジェクト、AI ディアトロフィ合同報告会 	国立健康・栄養研究所
3, 4月	AI 栄養・機能性研究部会第1期報告会が3月5日に開催されており、AI 栄養機能プロジェクト分科会との合同で成果と総括について発表した。		
5, 6月	第1期で活動を終了することが決まり、活動は継続しないことが決まり、3/5に開催された「AI 栄養・機能性研究部会第1期報告会」をもって本分科会の活動を終了した。		

◆AI ディアトロフィ研究部門

活動ビジョン・ゴール	年度目標

数千分子種よりなる食品摂取によるヒトの代謝状態を最新のコンピュータ技術と計算科学を活用し、高速で安価に食の機能性・安全性を予測する AI システムを構築する。	<ul style="list-style-type: none"> ・代謝モデルの領域拡大 ・機能伝達経路のイジングモデル ・AI 教育
---	--

	進捗・課題	予定・行動計画	関連団体等
1, 2 月	1 月 22 日に月例の進捗報告会を実施し、代謝のモデル化に関する進捗状況の報告がなされた。また、今後の AI リテラシー教育のなかで実習に使用予定とされているソフトウェア開発キットのインストールに関する説明があった。	AI 栄養・機能性研究部会第 1 期報告会が 3 月 5 日に開催されており、AI 栄養機能プロジェクト分科会との合同で成果と総括について発表予定。	東北大学未来科学技術共同研究センター (NICHe: New Industry Creation Hatchery Center, NICHe) 東北大学大学院農学研究科
3, 4 月	AI 栄養・機能性研究部会第 1 期報告会が 3 月 5 日に開催されており、AI 栄養機能プロジェクト分科会との合同で成果と総括について発表した。		
5, 6 月	第 2 期スタートに向け、参加企業勧誘 (現在 3 社)。		
7, 8 月	<ul style="list-style-type: none"> ・第 2 期スタートに向け、参加企業勧誘継続 (現在 5 社)。 ・東北大学 NICHe との契約締結に向けた草案を送付。 	研究講座開始に向けたオリエンテーションを 10 月に開催へ。	東北大学未来科学技術共同研究センター (NICHe: New Industry Creation Hatchery Center, NICHe) 東北大学大学院農学研究科
9, 10 月	<ul style="list-style-type: none"> ・共同研究講座第 II 期第 2 期開始に際し、オリエンテーション会議開催 (10/28)。リアル参加 (本講座参画) 企業は 5 社。Web 参加は 1 社。 第 I 期の活動概略、今年度の活動計画について、情報提供。 	メンバーが具体的に参画できる勉強会、セミナー開催を計画する。	東北大学未来科学技術共同研究センター (NICHe: New Industry Creation Hatchery Center, NICHe) 東北大学大学院農学研究科
11, 12 月	<ul style="list-style-type: none"> ・共同研究講座第 II 期第 II 期勉強会について 	メンバーが具体的に参画できる勉強会、セミナー開催を計画	東北大学未来科学技術共同研究セン

	<p>① 本年度開催日として、 12/17、1/14、3/17 を決定。</p> <p>② 第1回勉強会：“量子コンピュータ、AlphaFold3、関連データベース等の最新動向”を Web 開催。</p>	<p>する。</p>	<p>ター (NICHe:New Industry Creation Hatchery Center, NICHe) 東北大学大学院農 学研究科</p>
--	--	------------	--

ILSI Japan 活動報告<2024>

情報委員会

◆情報委員会・編集部会

活動ビジョン・ゴール	年度目標
<ul style="list-style-type: none"> ・ 調査・研究活動とその成果の発表 ・ 科学情報の普及 ・ 国内外の関連機関との交流・連携 	(1-2 月度) ~ (3-4 月度) 1. 活動報告配信 (年 6 回) 2. 機関誌「イルシー」の発行 (年 4 回) 3. 「栄養学レビュー」誌の発刊 (年 4 回) (女子栄養大学出版部との共同事業) 4. 種々出版物発刊のコーディネート
	(5-6 月度) より変更 1. 活動報告配信 (年 6 回) 2. 機関誌「イルシー」の発行 (年 4 回) 3. 「栄養学レビュー」誌の発刊 (年 4 回) (女子栄養大学出版部との共同事業) 4. 種々出版物発刊のコーディネート 5. ホームページ改定

	進捗・課題	予定・行動計画	関連団体等
1, 2 月	1. 活動報告 ・ 2023 年 11, 12 月分配信 (1 月)。 2. 「イルシー」 ・ 157 号: 発行、ホームページ掲載、お知らせメール配信 (2/8) ・ 158 号: 編集中 (2024 年 5 月発行予定) ・ 5 年経過号のパスワード解除 2018 年発行号 (133~136 号) をパスワードフリーで閲覧できるように修正。 3. 「栄養学レビュー」誌 ・ 123 号: 編集中 (2024 年 2 月発行予定のところ Oxford University Press との契約更改遅延につき未発行) ・ 124 号: 編集中 (2024 年 5 月発行予定) ・ 125 号: 編集中 (2024 年 8 月発行予定)	1. 部会活動報告の配信 (1 月、3 月、5 月、7 月、9 月、11 月) 2. 機関誌「イルシー」の発行 (2 月、5 月、8 月、11 月) 3. 「栄養学レビュー」誌の発刊 (2 月、5 月、8 月、11 月)	

3, 4月	<ol style="list-style-type: none"> 1. 活動報告 <ul style="list-style-type: none"> ・ 2024年1, 2月分配信 (3月)。 2. 「イルシー」 <ul style="list-style-type: none"> ・ 158号：編集中 (2024年5月発行予定) 3, 「栄養学レビュー」誌 <ul style="list-style-type: none"> ・ 123号： 2024年3月発行(1か月遅れ) ・ 124号：編集中 (2024年5月発行予定) ・ 125号：編集中 (2024年8月発行予定) ・ 126号：編集準備 (2024年11月発行予定) 4. 「栄養学レビュー」誌展望 <ul style="list-style-type: none"> ・ 来年以降の対応について編集委員と個別面談 (3/15, 22, 25)、その結果を踏まえ全体面談を実施 (4/22)。 ・ 女子栄養大学出版部と本件について、相談 (5/1)。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 部会活動報告の配信 (1月、3月、5月、7月、9月、11月) 2. 機関誌「イルシー」の発行 (2月、5月、8月、11月) 3. 「栄養学レビュー」誌の発刊 (2月、5月、8月、11月) 	
5, 6月	<ol style="list-style-type: none"> 1. 活動報告 <ul style="list-style-type: none"> ・ 2024年3, 4月分配信 (5月)。 2. 「イルシー」 <ul style="list-style-type: none"> ・ 158号：発行、ホームページ掲載、お知らせメール配信 (5/20) ・ 159号：編集中 (2024年8月発行予定) 3, 「栄養学レビュー」誌 <ul style="list-style-type: none"> ・ 124号： 2024年5月発行 ・ 125号：編集中 (2024年8月発行予定) ・ 126号：編集中 (2024年11月発行予定) 4. 「栄養学レビュー」誌展望 <ul style="list-style-type: none"> ・ OUP に対して来年以降の契約変更を打診。公表形態と費用について今後協議する (7/5)。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 部会活動報告の配信 (1月、3月、5月、7月、9月、11月) 2. 機関誌「イルシー」の発行 (2月、5月、8月、11月) 3. 「栄養学レビュー」誌の発刊 (2月、5月、8月、11月) 	4. Oxford University Press (OUP)

	<p>5. ILSI Japan ホームページ</p> <p>現在のホームページを全面改定する場合の作業、並びに費用について2社の説明を受けた。両社共200万円強の見積もり(5/28~6/28)。</p>		
7, 8月	<p>1. 活動報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2024年5,6月分配信(7月)。 <p>2. 「イルシー」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・159号:発行、ホームページ掲載、お知らせメール配信(8/9) ・160号:編集中(2024年11月発行予定) <p>3. 「栄養学レビュー」誌</p> <ul style="list-style-type: none"> ・125号:2024年8月発行 ・126号(=最終号):編集中(2024年11月発行予定) 	<p>1. 部会活動報告の配信</p> <p>(1月、3月、5月、7月、9月、11月)</p> <p>2. 機関誌「イルシー」の発行</p> <p>(2月、5月、8月、11月)</p> <p>3. 「栄養学レビュー」誌の発刊</p> <p>(2月、5月、8月、11月)</p>	
9, 10月	<p>1. 活動報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2024年7,8月分配信(9月)。 <p>2. 「イルシー」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・160号:編集中(2024年11月発行予定) ・161号:編集中(2025年2月発行予定) <p>3. 「栄養学レビュー」誌</p> <ul style="list-style-type: none"> ・126号(=最終号):編集完了、印刷仕上がり待ち(2024年11月発行予定) ・最終号に向け、購読者に対し、これまでの購読に感謝するとともに最終号となることのお知らせ文書を作成。最終号発送時に添付する。 	<p>1. 部会活動報告の配信</p> <p>(1月、3月、5月、7月、9月、11月)</p> <p>2. 機関誌「イルシー」の発行</p> <p>(2月、5月、8月、11月)</p> <p>3. 「栄養学レビュー」誌の発刊</p> <p>(2月、5月、8月、11月)</p>	
11, 12月	<p>1. 活動報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2024年9,10月分配信(11月)。 <p>2. 「イルシー」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・160号:発行、ホームページ掲載、お知らせメール配信(11/15) 	<p>1. 部会活動報告の配信</p> <p>(1月、3月、5月、7月、9月、11月)</p> <p>2. 機関誌「イルシー」の発行</p> <p>(2月、5月、8月、11月)</p>	

	<ul style="list-style-type: none">・ 161号：編集中（2025年2月発行予定）3. 「栄養学レビュー」誌・ 126号（=最終号）：2024年11月20日発行4. Nutrition Reviews 誌を出版するオックスフォード大学出版から同誌のアブストラクトのみを機械翻訳し発信するプロジェクトに対するライセンス契約の継続は不可との連絡を受領。		
--	---	--	--

ILSI Japan 活動報告<2024>

事務局

【理事会】

1, 2 月	<p>第 1 回理事会が令和 6 年 2 月 7 日（水）に開催された。</p> <p>1. 令和 6 年通常総会審議事項・報告事項</p> <p>審議事項</p> <p>1) 2023 年事業活動報告及び決算報告書案承認の件 山口事務局長が各研究会、研究部会ごとに事業活動の報告をし、続けて俵積田次長決算の概要を資料に基づき説明した。 山田監事より、2023 年決算に関して監査の結果、決算が妥当であると報告があった。</p> <p>2) 2024 年事業活動報告及び収支予算書案承認の件 事務局長が各研究会、研究部会ごとに事業活動の計画を報告し、同上次長が収支予算の概要と会費値上げ案を資料に基づき説明した。</p> <p>3) ILSI Japan への CHP 統合 審議事項 1)は異議なく承認された。 審議事項 2)については、ILSI Japan と CHP の収支を分けて説明すること、会費値上げ案は検討不足との理由で総会に提案することが却下された。 審議事項 3)は却下され、総会決議が必要な案件が発生した場合、迅速に総会を開催できるよう、Web 開催など開催方法の変更案を提案することが決議された。</p> <p>報告事項</p> <p>本部動向 事務局長から、ILSI 論文の題材として、一番多いのはニュートリションであると説明した。 本部の 2024 年の総会でのセッション内容や今後の ILSI のターゲットについて説明した。</p> <p>2. 決議事項</p> <p>改選理事の承認 事務局長から重任理事、新任理事、退任理事に関して説明があり、満場一致で承認された。改選理事はその場で全員承諾した。</p> <p>第 2 回理事会が令和 6 年 2 月 25 日（日）に開催された。 改選理事が出席し互選の結果、引続き宮澤理事が理事長に選任され、その場で承諾した。他に副理事長に桑田理事、中江理事、谷口理事、阿部理事が選任され、その場で承諾した。理事長代行者を桑田副理事長とすることが決議された。会長職はアカデミア出身の理事長が選任されたので、空席とすることが決議された。</p>
3, 4 月	<p>第 3 回理事会が令和 6 年 4 月 17 日（水）に味の素本社の会議室にて Hybrid 形式で開催された。</p> <p>1. 決議事項</p> <p>○本部への拠出金について 2024 年の ILSI 年次総会において各支部が総会開催費用を負担することが重要であると</p>

	<p>決議がされ、ILSI Japan は、USD 6,500 を負担することとされた。以前はそのような支出を支部が負担したことがないこと、負担決議に ILSI Japan のメンバーが参加したのか、また、一旦、前事務局長が負担金を断ったのに返答がなかった事実があったことなど種々議論した結果、ILSI Japan の財政が現在脆弱なため支払わない前提で本部に疑問点を確認することとした。</p> <p>2. 報告事項</p> <p>1) 本部情報 欧州が立ち上げた「ポストバイオティックス」プロジェクトの説明と本部の4つのワーキンググループの活動内容を事務局長が説明した。</p> <p>2) 支部情報 イ) ILSI Taiwan の日本訪問について、日程 (6/17-22) と訪問先について事務局長が説明した。 ロ) 第2回 ALSIN 会議が今年、韓国で開催されること、会議前のミニ・シンポジウムにヘルス・クレームの日本の専門家の参加を要請されたことを事務局長が説明した。</p> <p>3. その他 ILSI Japan の財政課題を早急に検討することを理事より事務局に要望された。</p>
5, 6 月	<p>(1) 第3回支部理事会フォロー (本部への拠出金について) (5/4, 21)</p> <p>1) 本部に対して下記ポイントを確認・説明</p> <ul style="list-style-type: none"> • どうして支部が本部総会の費用をカバーするのか (背景) ⇒ ILSI 組織体が代わり、総会費用については、支部で分担することがグローバル理事会で決定。 • 今後本部総会の費用を毎年支部が支払う形を継続するのか? ⇒ 本部総会の在り方も含め WG を作って議論している。 • 支払いを拒絶した場合はどうなるか? ⇒ ILSI グループからの退会となる。 <p>(2) 第4回支部理事会 (6/7)</p> <p>1) 本部総会資金 (US\$6,500) 捻出について 本部体制の変化、本部からの情報等、満足できない状況ではあるが、支部経費削減案を事務局が理事に提示したことにより、拠出金支払いについて、決議された。</p> <p>2) 理事会体制強化について 議長より ILSI Japan の情報発信の在り方、本部の情報の取り方がうまく行われていないと感じ、理事会体制の強化プランを提案</p>
7, 8 月	<p><u>2024 年第5回理事会 (7月17日開催)</u></p> <p>1. 理事会体制の強化 新理事候補者 5 名が推薦により選任され、特に異議なく決議された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 新理事の所属先と氏名は次の通り。東京大学 佐藤隆一郎様、東京農業大学 上原万里子様・小西良子様、国立研究開発法人農研機構 大池秀明様、東北大学 戸田雅子様。 <p>2. ILSI SEAR (イルシー東南アジア地域支部) との協力体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ILSI SEAR より共同プロジェクト提案があり報告。ILSI SEAR に所属していない ILSI Japan 会員企業を対象にアジア地域でのネットワークを構築し、主要な科学のおよび優先的トピックスや ASEAN 市場への展開に関連性と影響を与える規制の展開について学ぶことを趣旨としたもの。具体的な説明が無いので賛同は難しいとの意

	<p>見が出て、再度確認することになった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 共同プロジェクトのテーマについて、① マイクロバイオーム、プレ・プロバイオティクス、② 各国法規フォローアップ、等の提案あり。今後具体的にどのような連携が可能か考慮する。 <p>3. ILSI Japan の財務体制について報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ILSI Japan と ILSI Japan CHP とに分け、収入の他、人員及び給与、経費の内容を説明した。CHP については、人件費を支払うためには収入が最低 7 百万円/年必要 ● 来年度以降の CHP 事業に関して説明した。フレイルや MCI（軽度認知障害）に興味を有する会員企業に参加を募る提案をした。理事から様々な質問や意見が出た。活動を継続するには、サポート企業をさらに開拓するか、または ILSI Japan の研究部会と同様にテーマを出して会員から参加を募るか、どちらかであるとの結論に達した。
9, 10 月	<p>1. ホームページ改修費用</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 社外からの使い勝手の悪さの指摘や、ILSI 本部や他支部のホームページと整合性がとれていない等の理由により、不具合な点を大幅に改修する提案をした。 ● 見積費用の妥当性、資金の手当てを説明した結果、全員一致で承認された。 <p>2. 研究部会残金の取扱い</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 明確な活動実績のない研究部会の残金について、年度終了時に活動終了と見て事務局資金へ移すことを提案し、全員一致で承認された。 <p>3. 2024 年収支見込の報告（部会の収支は予算）</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 収入に関して予算に比し、会員の退会や新規会員の確保減、AI 栄養・機能性研究部会の第Ⅱ期参加者の減少により 9.5 百万円減収。 ● 支出に関して予算に比し、本部からの総会費用の一部負担による支出増を、バイテク情報普及会に人件費の一部を負担してもらうことなどによりマイナス 0.3 百万円と見込む。 <p>4. 第 23 回国際栄養学会議（ICN2025）への参加</p> <p>グローバル事務局長会議にて、パリで開催される ICN2025 への ILSI Federation としての参加について提案があった。</p>
11, 12 月	<p>第 7 回理事会開催（12/18 15:00～16:55）</p> <p>決議事項</p> <p>1. 定款変更</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 理事の代理出席及び同行者出席について質問があり、定款に記載がないため議題とした。現在、書面表決の仕組みがあるとの理由で代理出席及び同行者は認めないと決議された。 ● 現在、定款では理事会の構成が理事のみと記載されていること、実際、監事が出席していることを考慮すると定款に監事の出席や表決権の有無及び議題に関する出席者を認める記載が必要との意見が出て、次回の理事会に案を出すよう指示があった。 <p>2. 2024 年収支見込案、2025 年収支予算案</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 2024 年収支見込案は、特に質問なく承認された。 ● 2025 年収支予算案について、賃上げの有無、会員勧誘のための方策、CHP テイクレン収支内容、内閣府の SIP（戦略的イノベーション創造プログラム）参加等に質問があった。 ● 来年赤字予算を出すのであれば 3 か年計画を作成し、黒字化の展望を示すよう意見が出た。 ● ILSI Japan 会費の値上げの意見が出て、他の団体等の値上げ状況を調べるよう意見

	<p>が出た。</p> <p>討議・報告事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ALSIN 会議のフォロー <ul style="list-style-type: none"> ● ILSI Focal Point in China の継承組織である Shanghai JS Life Sciences Institute (SJLSI) 及び本部が参加する今年 6 月に開催される「アジアアレルギー会議」への資金拠出と、参加時に「ALSIN 会議」の名称を出すことへの同意要請があり、資金は出さない、ALSIN 会議の名称利用は問題なしとなった。 2. SIP 参加について <ul style="list-style-type: none"> ● 内閣府が事務局をしている SIP の中の、包摂的コミュニティプラットフォーム構築の D グループ「障がい者、高齢者の生きがい向上策」の中の「デジタル同居サービスの開発」の協力参加機関として、2024 年に ILSI Japan 木村氏がコンサルタントとしてすでに参加している。 ● プログラムのターゲットが、働く世代から高齢者のフレイル予防へとシフトしてきており、食品産業の参加の余地ありと見て、参加を継続したい。 ● 昨年 11 月に公開シンポジウムが開催され、ILSI Japan の会員企業が 22 社参加していることが判明し、新研究部会の発足につなげればよいと考えている。 ● 2025 年参加の詳細は、2 月 5 日の理事会で担当者より再度説明する。 3. GR プロジェクトについて <ul style="list-style-type: none"> ● グリセミック・インデックス (GI) に代わる GR (Glucose Releasing Rate) 法の研究について経過報告をし、課題内容、結論が見えてきたことを説明。終息の方向で桑田理事指導の下、進めている。 4. 本部情報 <ul style="list-style-type: none"> ● 2025 年 8 月開催のパリ国際栄養学会議 (ICN) に ILSI が Federation として参加することが決定した。6 つのセッションを実施予定。日本はまだ参加を決めていない。 ● 本部総会は 2025 年夏にバーチャルで開催を予定、翌 26 年はリアルで開催する。 5. 2025 年 4 月以降の事務局体制について <ul style="list-style-type: none"> ● 事務局長の出向契約が 3 月末に終了するため、次期事務局長の指名があった。
--	--

【ILSI Japan 総会】

1, 2 月	<p>令和 6 年通常総会が 2 月 20 日 (火) 午前 10 時より江東区森下文化センター内会議室において開催された。</p> <p>正会員総数 50 名のうち総会出席数 15 名、書面表決 30 名であった。</p> <p>議長が正会員より 1 名選任され、以下議事を進めた。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 審議事項 <ul style="list-style-type: none"> 第 1 号議案 2023 年度事業活動報告及び決算報告案が承認された。 第 2 号議案 2024 年度事業活動計画及び収支予算案が承認された。 第 3 号議案 定款変更 (総会開催方法の変更) <p>質疑はなし。</p> 2. 報告事項 <ul style="list-style-type: none"> 本部動向の説明 <p>事務局長が ILSI グローバルの論文の題材を多い順にまとめた資料について説明した。また 1 月に開催された年次総会のセッションの題名や、どのようなターゲットを目的としているかを説明した。</p>
--------	--

【事務局】

1, 2月	
3, 4月	<p>(1) 本部グローバル拡大理事会/事務局長会議 (3/26, 27)</p> <p>1) 本部総会 (経費総括、参加者数、今後の本部総会の在り方 WG 報告) 必要性：科学的リーダーシップの維持、科学的協働、科学教育、メンバー参画 ポイント：達成すべきポイントを再考、政府関係者の参画 (必要な議論は何)、優先順位付け、多くのテーマを一度に議論、スピーカーの選定、開催場所 (リゾート地) ⇒支部総会との接続、他団体との共催、完全オンライン、絞ったテーマで短期間、開催頻度</p> <p>2) ILSI Europe Postbiotics project (ポストバイオティクスの認識に関し現状把握、認識向上) 状況紹介</p> <p>3) ILSI スポンサーシップガイドライン策定</p> <p>4) ILSI としての科学的関心分野まとめ</p> <p>5) ILSI 新規ブックレット策定作業</p> <p>6) 本部が進めている作業部会情報 (科学的関心領域、今後の総会の在り方、スポンサーシップガイドライン、コミュニケーション)</p> <p>(2) 他支部活動</p> <p>1) 台湾支部訪日対応 (3/28～4/26) 6月17日(月)～22日(土)の期間来日。食品企業の研究所、工場、ミュージアム訪問をアレンジ。 ✓ ILSI Japan 研究部会長へ情報交換会議への参画希望を確認。 ✓ 国際協力委員会に対応を要請</p> <p>2) 韓国支部 (4/8, 9) 第2回 ALSIN 会議開催の件 (9/18～20) ミニシンポジウム：“Health claims over the world in regulatory systemic aspects”を計画。日本からのアップデート情報提供の要請あり。</p>
5, 6月	<p>(1) 本部活動</p> <p>TAKE10!®商標対応 (5/28, 6/7, 13) ILSI Research Foundation の後継団体、the Agriculture and Food Systems Institute (AFSI) が商標を維持していることから、今後の進め方について打診メール、リマインドメールを送付。</p> <p>(2) 他支部活動</p> <p>1) ILSI Taiwan (6/17-21) 訪日対応</p> <p>① 6月17日(月) 理化学研究所 (横浜)、カップヌードルミュージアム</p> <p>② 6月18日(火) キッコーマン、明治</p> <p>③ 6月19日(水) セブンイレブン、JFEX FOOD (加工食品 EXPO)、国立医薬品食品衛生研究所</p> <p>④ 6月20日(木) 味の素、花王</p> <p>⑤ 6月21日(金) ILSI Japan、サントリー武蔵野工場</p>

	<p>2) 東南アジア地域支部 (6/26) Web 会議を開催し、情報交換した。</p> <p>① ILSI SEAR の会費、活動費徴収枠組み ② ILSI SEAR—Japan 共同研究部会について 農水省プロジェクト 合同メンバー交流、研究部会設立</p>
7, 8 月	<p>1. 島田理事面談 (7/25, 8/8)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 農林水産省補助事業取得に向け、ILSI Japan のこれまでの活動状況、現在の能力について情報提供。農林水産省の関連部署にて、情報入手を約束いただいた。 ● 農林水産省において、新事業・食品産業部、消費安全局等、関連部署を訪問され、ILSI Japan 理事として担当者と面談されたとの報告を受けた。
9, 10 月	<p>1. ILSI 本部関係</p> <p>(1) 事務局長会議 (9/25)</p> <p>1) 2025 年 8 月開催の ICN への参加・出展 (セッションの内容) に向け、項目の確認を実施。今後セッション項目を確定し、担当、内容を決める。</p> <p>① 文献レビューのためのレスポンシブル AI、② ヘルシーエイジングに向けた栄養、③ 健康的な人生の基礎となる幼少期の栄養、④ マイクロバイオーム、⑤ ビタミンとミネラル、⑥ 精密栄養学、が現時点での候補。</p> <p>2) ポストバイティクスに関する国際活動 (消費者の知識と理解、今後のサイエンスの特定) 紹介 (ILSI Europe を中心)。</p> <p>3) 各地域・支部の活動報告。</p> <p>(2) グローバル理事会、グローバルアセンブリー会議連絡 (10/24)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後の会議予定 ① 12 月 5 日にグローバル理事会開催 ② 12 月 18 日にグローバルアセンブリー開催 ・2025 年総会 (バーチャル) 企画委員会への参画要請 <p>2. TAKE10! ®の商標対応 (9/11-29)</p> <p>本商標は、ILSI Research Foundation (ILSI RF) が元々所有。日本における実施権は、ILSI Japan が持ち、権利継続、拡大については費用面も含め対応してきた。現在、TAKE10! ®活動は、概ね日本のみとなっている。一方、ILSI RF が無くなり、Agriculture & Food Systems Institute (AFSI) が後継として仕事を担っている。そこで、日本における登録名義変更が必要であり、AFSI に変更手続きの必要性を説明し、お手伝いすると同時に変更完了後に商標を ILSI Japan に譲渡するように依頼。先方からはその方向で進めることが了承された。</p>
11, 12 月	<p>1. 栄養学レビュー誌の編集業務を担当された箸本弘一氏、バイオテクノロジー部会を担当された在田典弘氏が 12 月末に退職された。</p> <p>2. ILSI 本部関係</p> <p>1) グローバル理事会、グローバルアセンブリー会議 (12/5, 18)</p> <p>① The ILSI Federation at ICN 2025 2025 年 8 月にパリで開催の ICN に ILSI として、ブース並びに 6 つのセッションを提案。</p> <p>② The 2030 ILSI Annual Report 5 年毎の報告書の中味 (サイエンス、他団体との違い、予算等) について議論。</p>

③ Nomination Review/ILSI Global Board of Trustees, Global Assembly

アジア地域は、変更なし。

④ Global Finance Discussion

支部拠出金は、現在約 US\$12 万、2018 年当時 US\$71 万から、かなり減少。

⑤ 2025 Global Annual Meeting (virtual)

ILSI U.S. & Canada 年会（4 月開催）との兼ね合いで 2025 夏に開催する。

2) Take10!®の商標対応（11/17, 20, 12/25）

① 本商標について、ILSI 研究財団後継の AFSI への権利者表示変更を完了。

② AFSI に連絡すると同時に次の段階として本商標を ILSI Japan へ移譲を要請（11/20）。

移譲登録文書を先方に送付し、該当部分への署名を要請（12/25）

